

日 時：令和3年12月14日（火）
午後7時から午後8時30分まで
会 場：小山町総合文化会館 大ホール

富士山ハザードマップ（改定版） 住民等説明会

次 第

1 開 会

2 開会挨拶

3 説 明

（1）火山噴火についての基礎知識（資料1）

（2）富士山ハザードマップ（改定版）の読み解き方（資料2）

（休憩）

（3）富士山の火山防災体制について（資料3）

（4）富士山ハザードマップ改定に関する小山町の取り組み等について
（資料4）

4 質疑応答

5 閉会挨拶

6 閉 会

■ 配布資料

- ・ 次第
- ・ 資料1 火山噴火についての基礎知識
- ・ 資料2 富士山ハザードマップ（改定版）の読み解き方
- ・ 資料3 富士山の火山防災体制について
- ・ 資料4 富士山ハザードマップ改定に関する小山町の取り組み等について

■ その他参考資料

- ・ 「静岡県総合防災アプリ」のリーフレット

令和3年度富士山ハザードマップ (改定版) 住民等説明会

火山噴火についての基礎知識

静岡地方気象台
火山防災官 道端 秀和

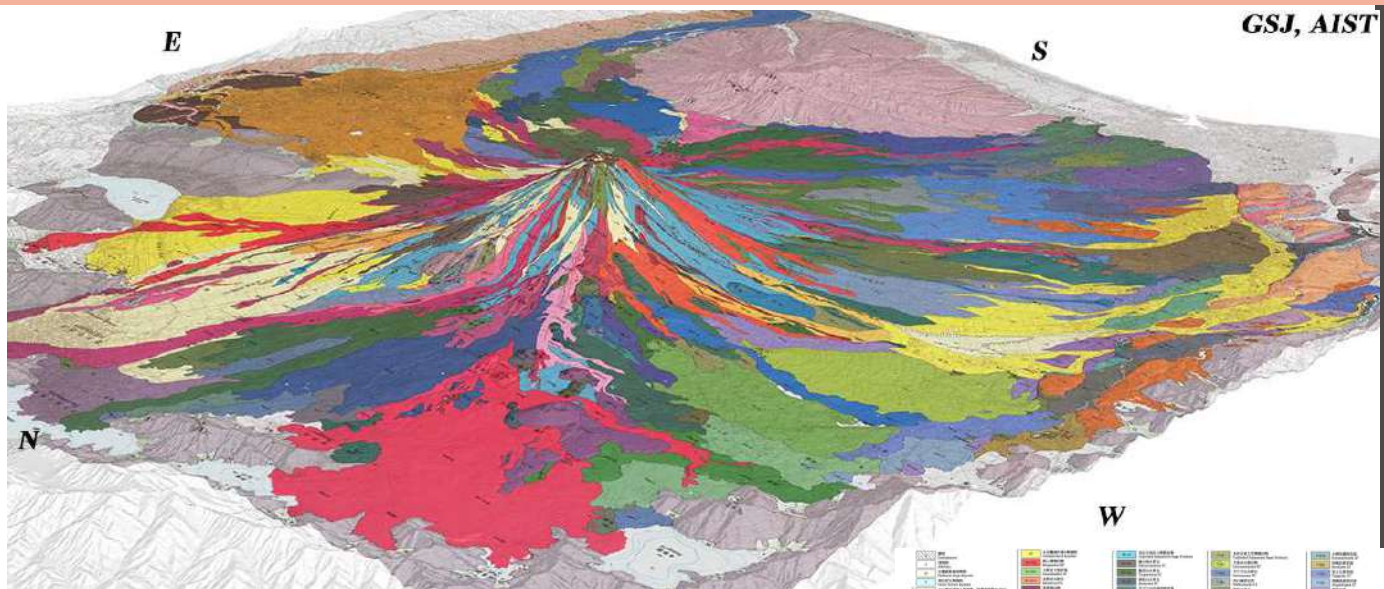
1

火山噴火に係る基礎知識 (10分)

- ・ 富士山の噴火履歴の特徴
- ・ 富士山において起こる可能性のある噴火現象の種類
 - ①溶岩流
 - ②火砕流
 - ③融雪型火山泥流
 - ④大きな噴石
 - ⑤小さな噴石、降灰及び厚い降灰
 - ⑥土石流

2

富士山の噴火履歴の特徴



それぞれの色が
いつの噴火の
どのような現象による堆積物かを示す

多くの噴火の繰り返しによって現在の富士山に

出典：産総研地質調査センター 富士火山地質図
https://gbank.gsj.jp/volcano/Act_Vol/fujisan/map/volcmap_bv2.html

富士山において起こる可能性のある噴火現象の種類



画像提供：小山真人先生、図版作成：TUBE graphics

富士山で起こりうる噴火現象



① 溶岩流



- ・溶岩が斜面を流れ下る現象
- ・噴出したばかりの溶岩の温度：900～1200℃
- ・木々を燃やし、水と触れ水蒸気爆発を起こす
- ・流下速度は、一般的に人が歩く速さ程度
- ・人の避難は比較的容易

画像：ハワイ島・キラウエア火山の溶岩流の様子

引用：HUFFPOSTホームページ

5

富士山で起こりうる噴火現象



② 火砕流



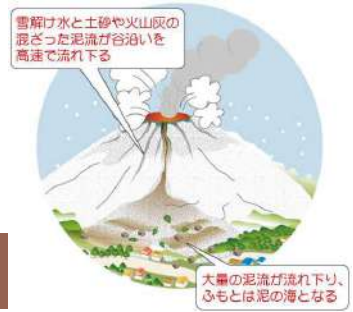
- ・噴火により放出された高熱の岩石や破片が、地表に沿って流れる現象
- ・火山灰と空気の混ざった高熱の爆風は火砕サージ
- ・火砕流や火砕サージの速度は時速百km以上、温度は数百℃
- ・速度も早いので、事前の避難が必要

画像：雲仙普賢岳の火砕流の様子

写真：GIFMAGAZINE気象庁ホームページ

6

富士山で起こりうる噴火現象



③ 融雪型火山泥流



ネバデルルイス火山の融雪型火山泥流（1985年）
米国地質調査所のHPより

写真：気象庁ホームページ

- ・ 雪の積もっている時期に、溶岩や火砕流の熱で雪が溶けて起きる泥流
- ・ 積もった雪が一気に溶ける
⇒ 土石流よりも速く
大量の泥流が谷筋や沢沿いを遠方まで流下
- ・ 積雪期の噴火時等には、事前の避難が必要

7

富士山で起こりうる噴火現象



④ 大きな噴石



浅間山の噴石（平成17年8月4日）

- ・ 概ね20～30cm以上を大きな噴石と定義。
- ・ 特に大きな物は1m超
- ・ 小さい物でも家の屋根や壁を突き破る事がある
- ・ 登山中などに危険が増した場合は、丈夫な建物内に避難
- ・ やむをえず外出する場合にはヘルメットを着用

写真：気象庁ホームページ

8

富士山で起こりうる噴火現象

⑤ 小さな噴石、降灰及び厚い降灰



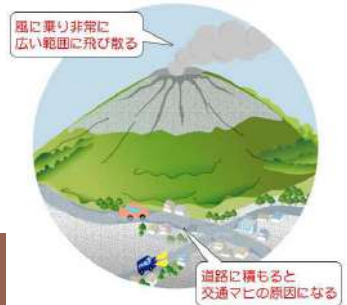
写真：桜島の降灰（2009年9月）



- ・ 噴火により噴出した固形物のうち、
直径2mm以上：『小さな噴石』
直径2mm以下：『火山灰』
- ・ 小さな噴石は、火口から10km以上、
火山灰は、数十kmから数百km以上風
に流されて運ばれることも
- ・ 火山の風下側では爆発的噴火に気付
いたら屋内等に退避すること

写真：桜島昭和火口の爆発による小さな噴石

出典：気象庁ホームページ



9

富士山で起こりうる噴火現象

⑥ 土石流



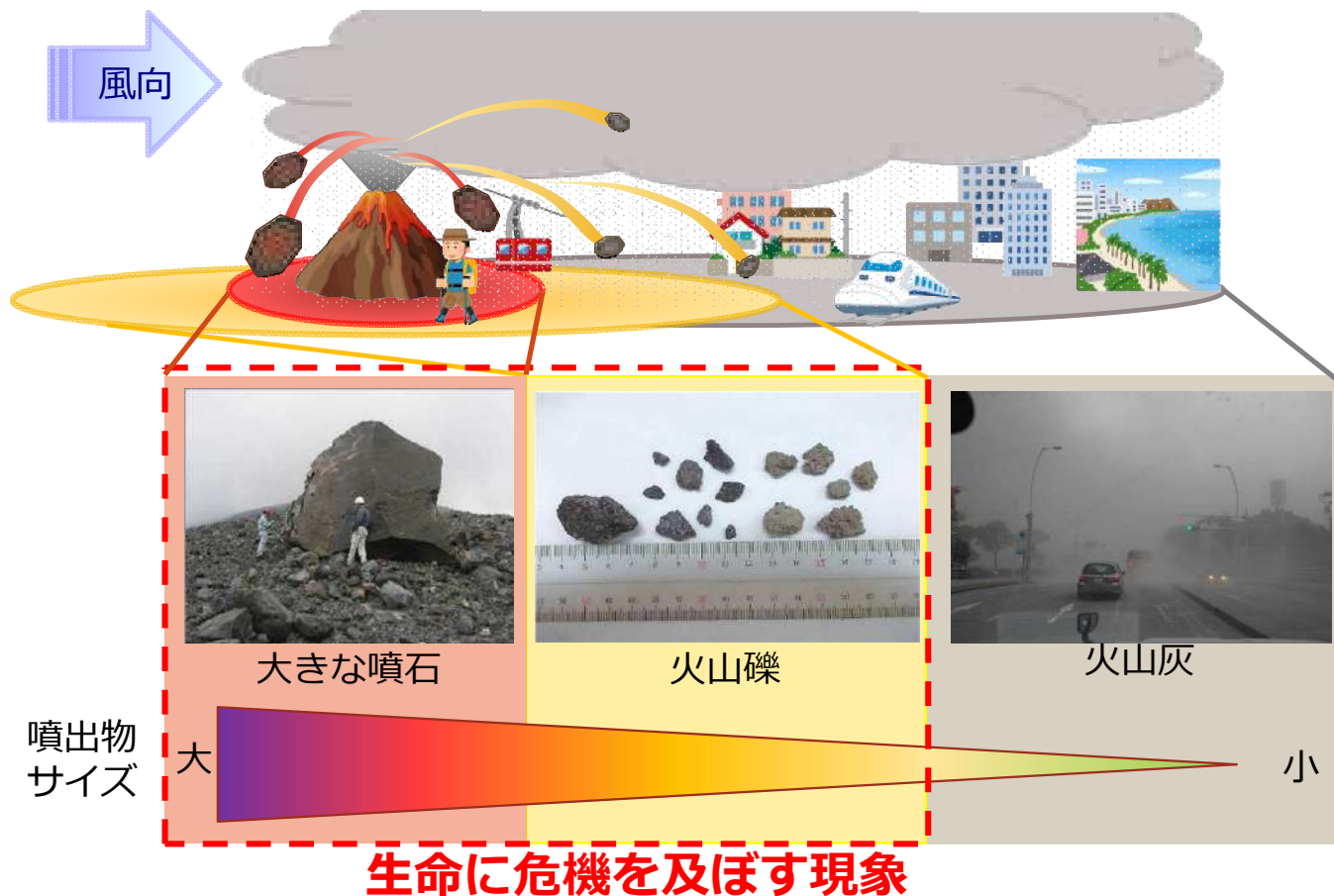
- ・ 火山の噴火後、火山灰の
降り積もった地域に雨が
降ると土石流が発生しや
すくなります。
 - ・ こうした土石流や泥流は、
高速で斜面を流れ下り、
下流に大きな被害をもた
らします。
- 噴火後に雨が予想されて
いる時は、川の近くや谷
の出口に近づかないよう
にしましょう。



写真：土石流による被害（雲仙普賢岳） 雲仙復興事務所HP

10

火山碎石物の到達範囲と生命への危険性



11

富士山において起こる可能性のある噴火現象の種類



● 地面を這って流下するもの ● 火口から噴出飛散するもの ● 水と合わさって影響を及ぼすもの
画像提供：小山真人先生、図版作成：TUBE graphics

12

富士山ハザードマップ（改定版） の読み解き方



富士山ハザードマップ（改定版）住民等説明会
日時：令和3年12月14日（火）
場所：小山町総合文化会館

静岡県危機管理部危機情報課
主 査 渡 邊 匡 央

0. 目次

1. ハザードマップ改定の経緯

参照ページ

p2

2. 富士山のハザードマップの種類

p7

3. 改定後のハザードマップから言えること

p12

ハザードマップ改定の経緯

1. (1) 対象とすべき富士山の噴火年代区分

point

- 富士火山地質図（第2版）に基づき年代区分を再設定した。
- 今回の改定では、活火山の定義である過去1万年の間で、特に噴火活動が活発な須走-b期（約5,600年前）以降を対象とすべき富士山の噴火年代区分とした。

(旧) 噴火ステージ区分（平成16年版）

年代区分	時期	主な噴火口の位置	噴火の傾向
古富士火山活動期	—	—	—
新富士火山活動期	ステージ1	約11,000年前～約8,000年前	山頂と山腹等
	ステージ2	約8,000年前～約4,500年前	山頂
	ステージ3	約4,500年前～約3,200年前	山頂と山腹等
	ステージ4	約3,200年前～約2,200年前	山頂
	ステージ5	約2,200年前～	山腹等

【新】 改定後の噴火年代区分

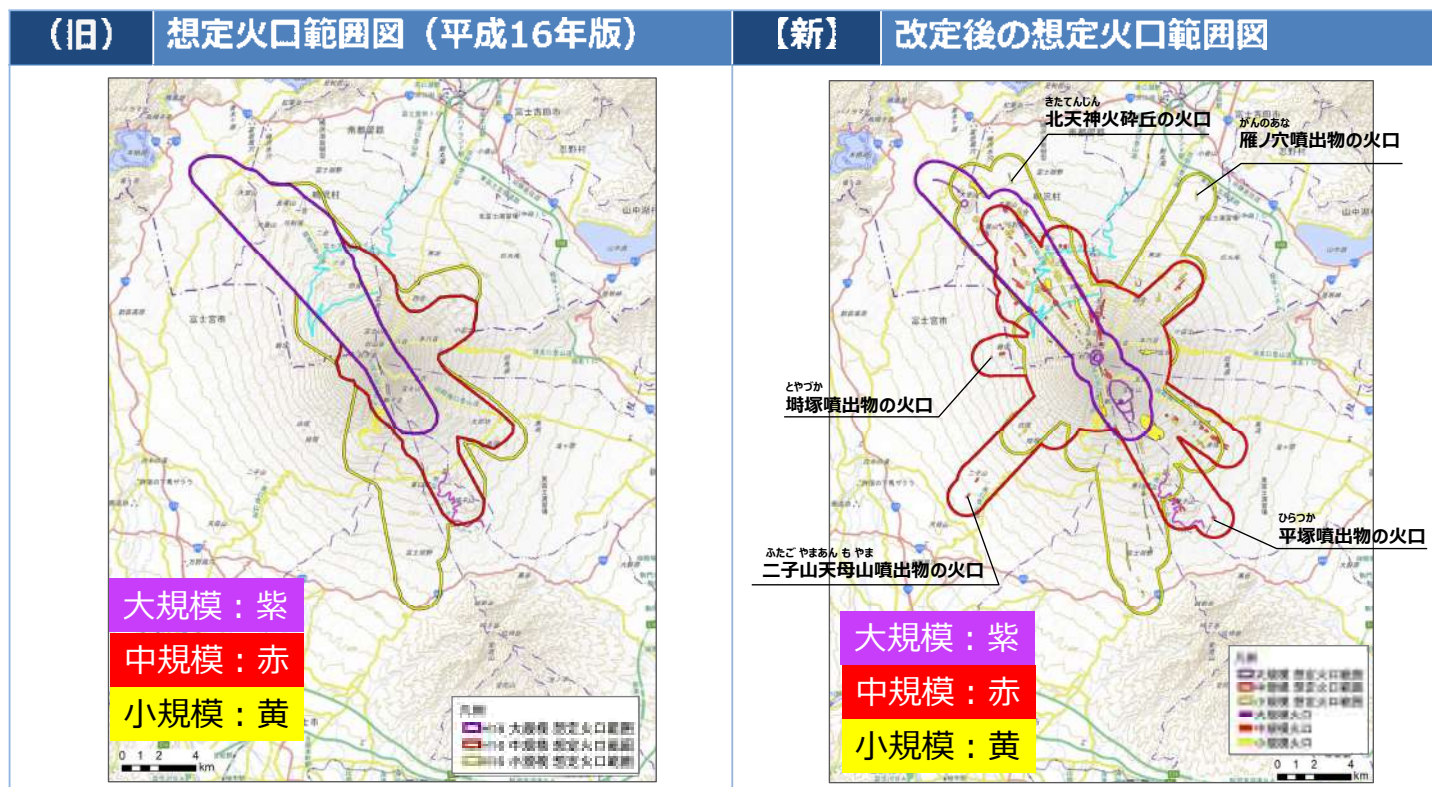
年代区分	時期	主な噴火口の位置	噴火の傾向
星山期	約10万年前～約17,000年前	—	爆発的噴火 複数回の山体崩壊
富士宮期	約17,000年前～約8,000年前	—	溶岩の大量流出
須走期	須走-a期	約8,000年前～約5,600年前	(静穏期) 小規模な火砕物の噴出 (富士黒土層の主要部分形成)
	須走-b期	約5,600年前～約3,500年前	山頂と山腹 溶岩の流出、火砕流の発生 (現在の円錐形の火山体の形成)
	須走-c期	約3,500年前～約2,300年前	山頂と山腹 爆発的噴火、火砕流の発生 山体崩壊
	須走-d期	約2,300年前～現在	山腹 溶岩の流出 爆発的噴火（宝永噴火）

 : 対象とすべき噴火年代区分

1. (2) 富士山が噴火する可能性のある場所「想定火口範囲」

point

平成16年版の想定火口範囲との主な変更点は、新たに追加された中規模噴火及び小規模噴火の火口及び山頂から半径4 km以内の全域を想定火口範囲に追加したことに伴い、想定火口範囲が広がった。



4

1. (3) 地形メッシュサイズの見直し

point

- 微地形や道路盛土などの大きな構造物の影響を反映するためには、より詳細な地形データが必要。
- 平成16年当時に比べ、コンピュータ技術が格段に進歩したことから20mメッシュの地形データを採用。



※2つの地形図は「富士山ハザードマップ改定に関する中間報告」による

5

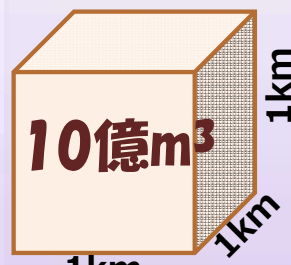
1. (4) 溶岩流及び火砕流の噴出量の見直し

point

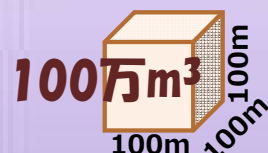
- 貞観噴火による噴出量の見直しにより、大規模噴火による溶岩流の噴出量が増大した。
- 新たに発見された鷹丸尾火砕流の堆積物の調査により、火砕流の噴出量が増大した。

	(旧) 平成16年版富士山ハザードマップ	【新】 改定版富士山ハザードマップ
 溶岩流	溶岩流の噴出量 小規模：2,000万m ³ 中規模：2億m ³ 大規模： 7億m³	溶岩流の噴出量 小規模：2,000万m ³ 中規模：2億m ³ 大規模： 13億m³
 火砕流	火砕流の噴出規模 240万m³	火砕流の噴出規模 1,000万m³

(参考) 10億m³とは



10億m³=
1km×1km×1km



100万m³=
100m×100m×100m

2.

富士山のハザードマップの種類

2. (1) 富士山のハザードマップの種類

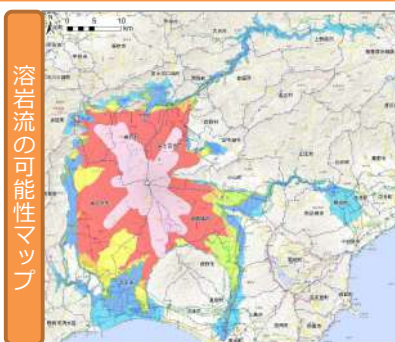


溶岩流

溶岩流ドリルマップ



※ 溶岩流の規模ごとのドリルマップの一例



火砕流・火砕サージ

火砕流ドリルマップ



※ 全火砕流ドリルマップの内の1例



融雪型火山泥流

融雪型火山泥流ドリルマップ



全55ケース

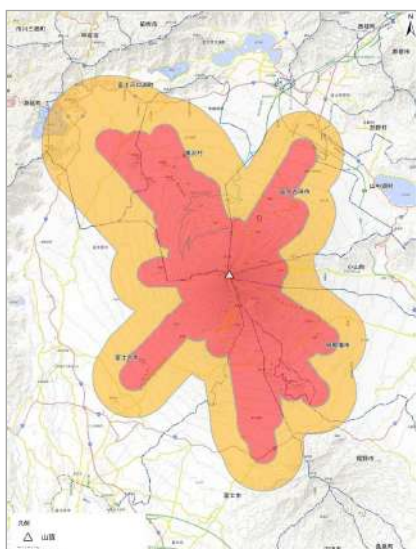


8

2. (1) 富士山のハザードマップの種類

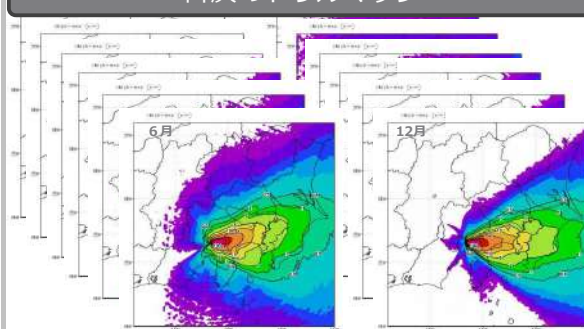


大きな噴石



降灰（小さな噴石を含む）

降灰のドリルマップ

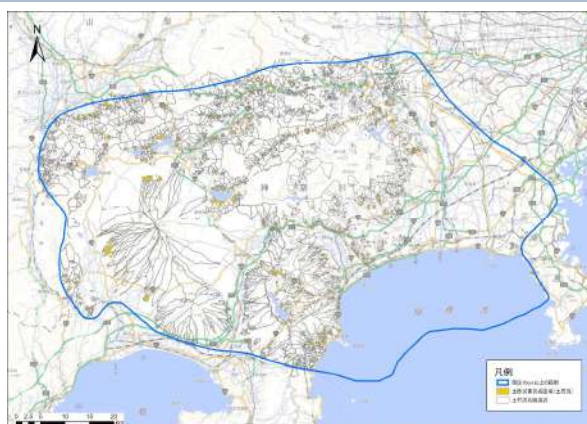


平成16年版報告書の図をから変更なし

降灰の可能性マップ



降灰後土石流

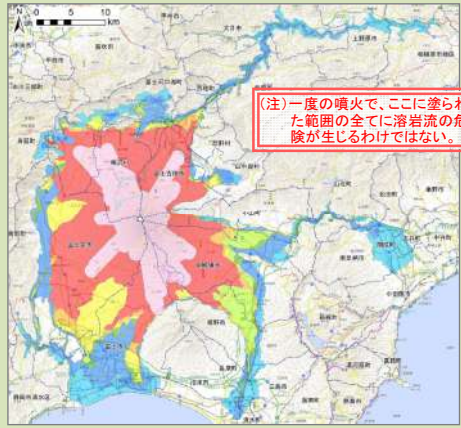


9

2. (1) 富士山のハザードマップの種類

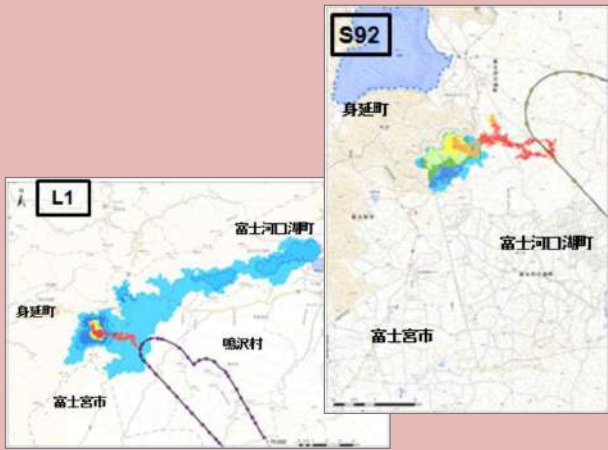
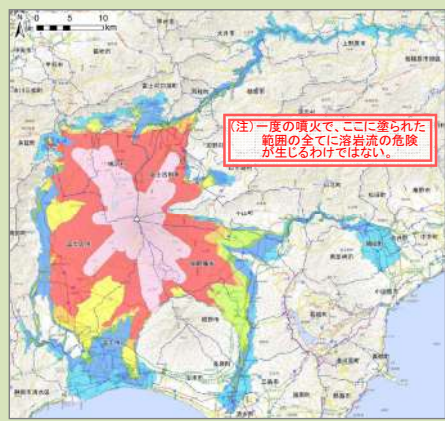
point

- 富士山が噴火した場合に、溶岩流や火砕流などの現象ごとに、規模や流量などを設定した上で、どの範囲まで到達するか数値シミュレーション等を用いて想定したものをハザードマップと呼ぶ。
- 富士山のハザードマップには、主にドリルマップと可能性マップがある。

	ドリルマップ	可能性マップ
代表例		
解説	溶岩流、火砕流など<u>個々の火山現象を数値シミュレーションなどによって描いた分布図</u>	各計算開始点からのドリルマップを重ね合わせて作図した包絡線により、<u>個々の火山現象が及ぶ最大範囲や最短到達時間を網羅的に可能性領域として示したマップ</u>

10

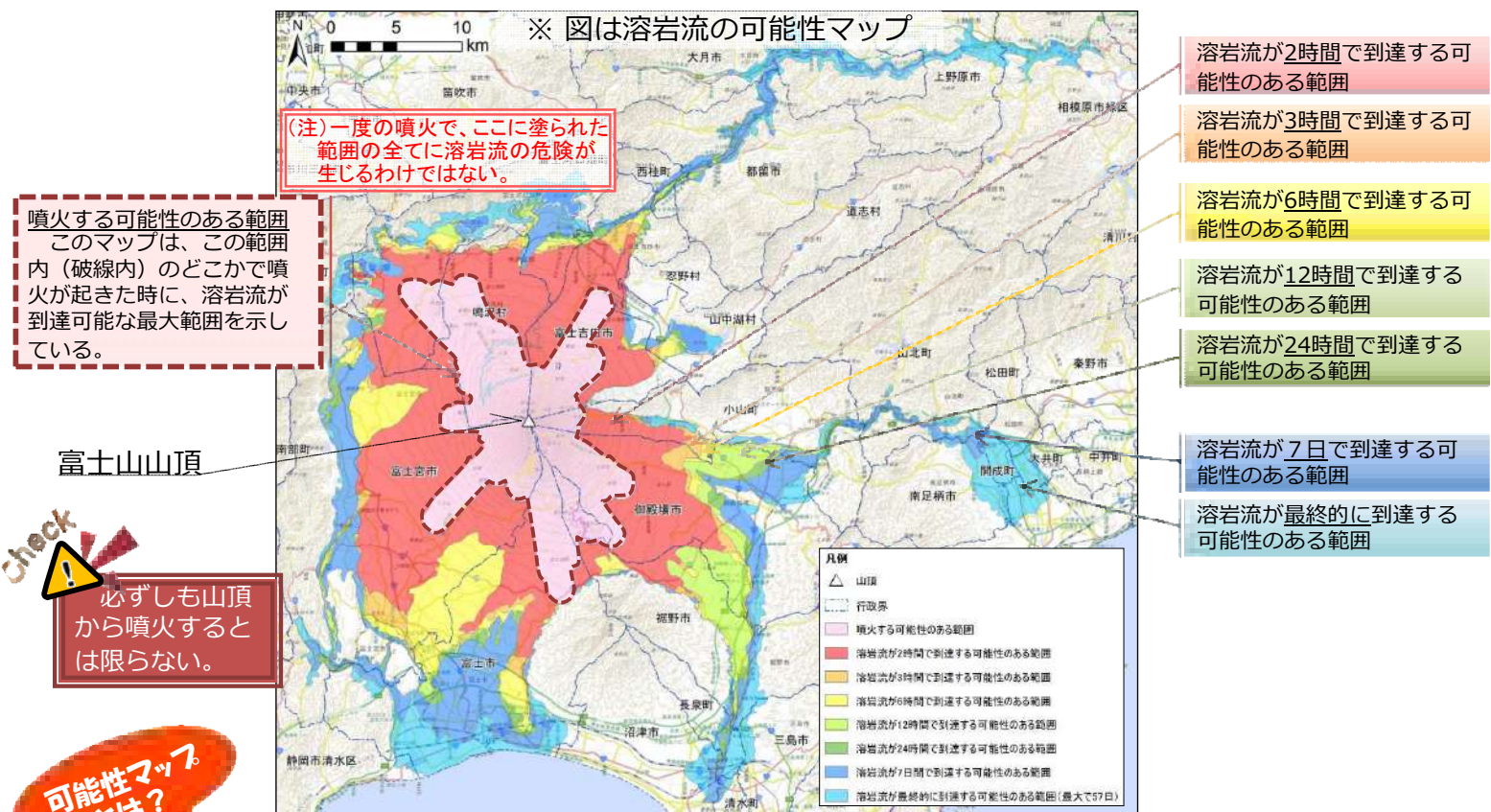
2. (2) ハザードマップの利点と欠点

	ドリルマップ	可能性マップ
利点	具体的な火山現象、災害（被災範囲の広がりや規模等）をイメージしやすい。	各地の住民が自分の居住地等における災害の発生可能性を一目で理解できる。
欠点	マップに記載された一部の地域だけで被害が発生し、他の地域では被害はないと誤解されるおそれがある。	噴火等が発生したときの具体的な被災範囲等をほとんどイメージできない。
代表例		

11

改定後のハザードマップから言えること

3. (1) 可能性マップの見方 —溶岩流の可能性マップの例—



- 富士山は噴火前に火口の位置が分かりません。そのため、噴火する可能性のある範囲（想定火口範囲）から噴火し、溶岩流等の火山現象が流れ下った場合に、「可能性としてどこまで到達するか」を示したものが、可能性マップと呼びます。

3. (2) 溶岩流の可能性マップ

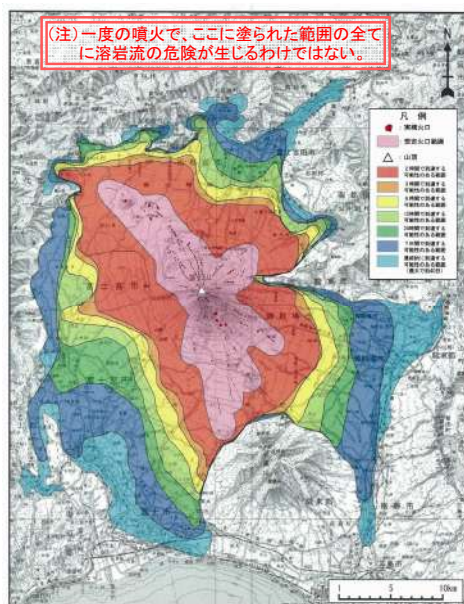
① 溶岩流



point

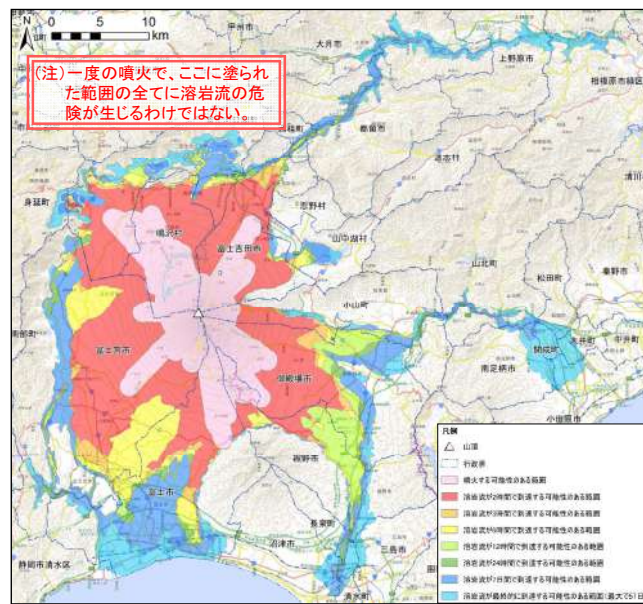
- 大規模溶岩流の噴出量を現行(平成16年版)の約2倍である13億 m^3 に変更したこと及び想定火口範囲の拡大や地形データの精緻化に伴い、溶岩流の到達可能性範囲が拡大した。
- 想定火口範囲の拡大などに伴い、市街地などへの溶岩流の到達時間が早くなった。

(旧) 溶岩流の可能性マップ (平成16年版)



- 大・中・小規模全てのドリルマップを重ねて、規模にかかわらず同一時間区分内に最も遠くまで到達している地点を結んだ包絡線から作成した。

(新) 溶岩流の可能性マップ



- 大・中・小規模全てのドリルマップを重ねて、規模にかかわらず同一時間区分内に最も遠くまで到達している地点を結んだ包絡線から作成した。
- また包絡線の中に含まれていても周囲を溶岩流が流下する島状の地域は、周囲の到達時間が24時間以内の場合そこに一次避難することは不適であると考えて可能性マップの範囲に含めて塗りつぶし、逆に周囲の到達時間が24時間以上の地域は除いた。

14

3. (2) 溶岩流の可能性マップ

① 溶岩流

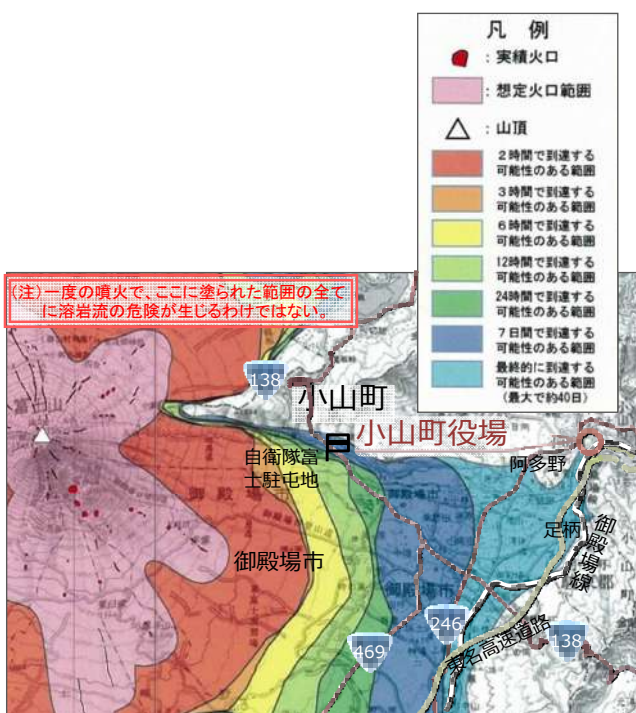


point

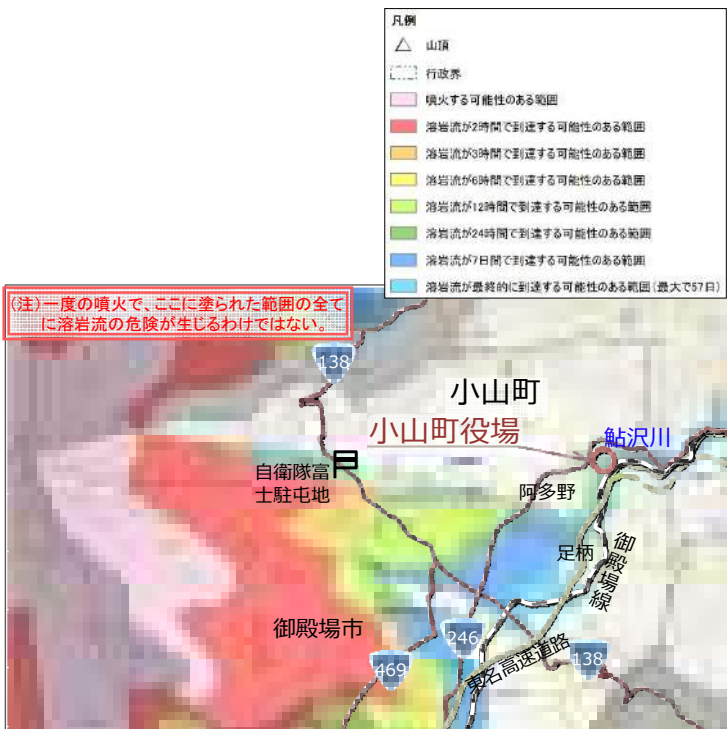
— 小山町及びその周辺域 —

- 小山町の特徴としては、地形データの精緻化及び想定火口範囲の若干の拡大により、山頂から東方向にある市街地方面の到達時間が早くなった。

(旧) 溶岩流の可能性マップ (平成16年版)



(新) 溶岩流の可能性マップ



15



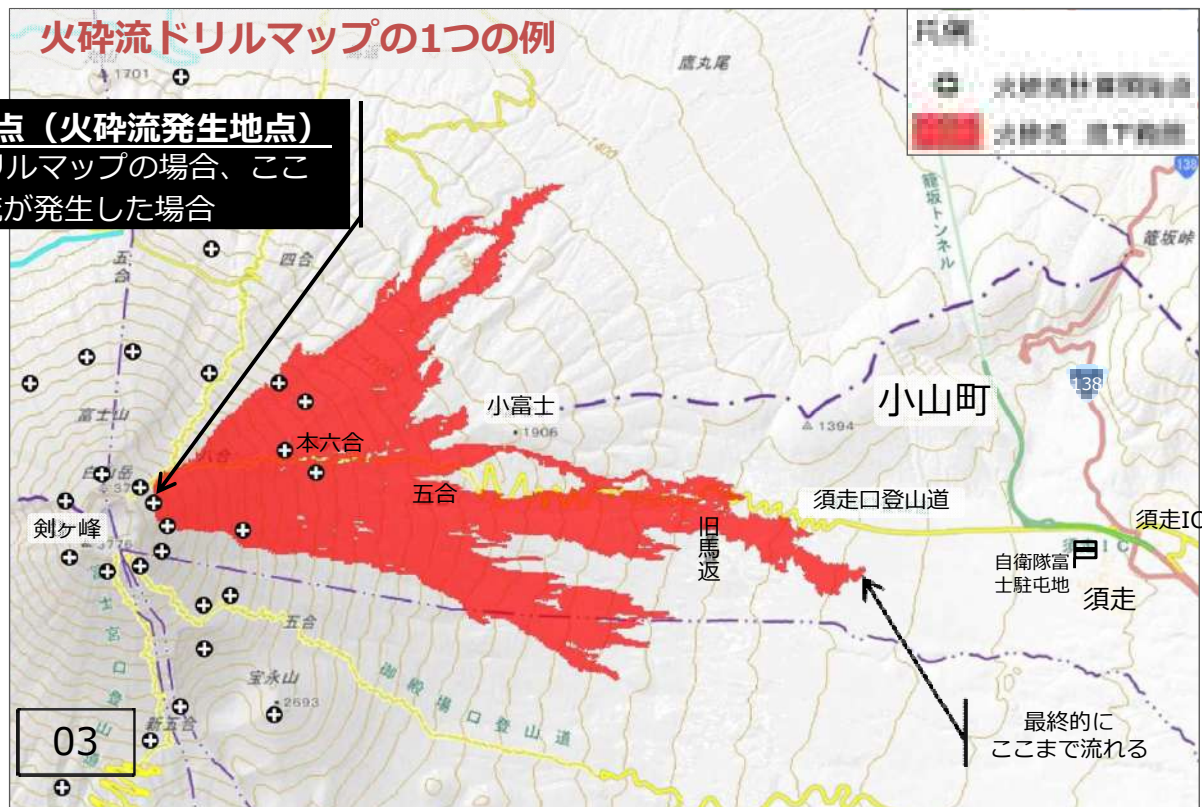
- 17



火砕流ドリルマップの1つの例

計算開始点（火砕流発生地点）

このドリルマップの場合、ここから火砕流が発生した場合



point

- 谷筋を流れる火砕流は遠方まで斜面を流下し易い。
- 到達範囲は、居住地には影響はないが、登山者や観光客などは早めの避難が必要。

18

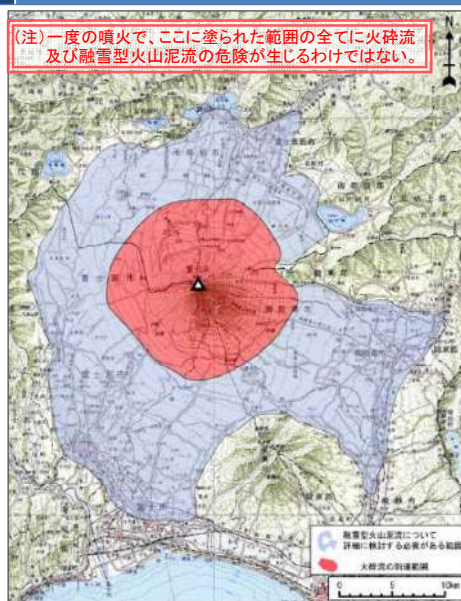
3. (6) 融雪型火山泥流の可能性マップ ③ 融雪型火山泥流



point

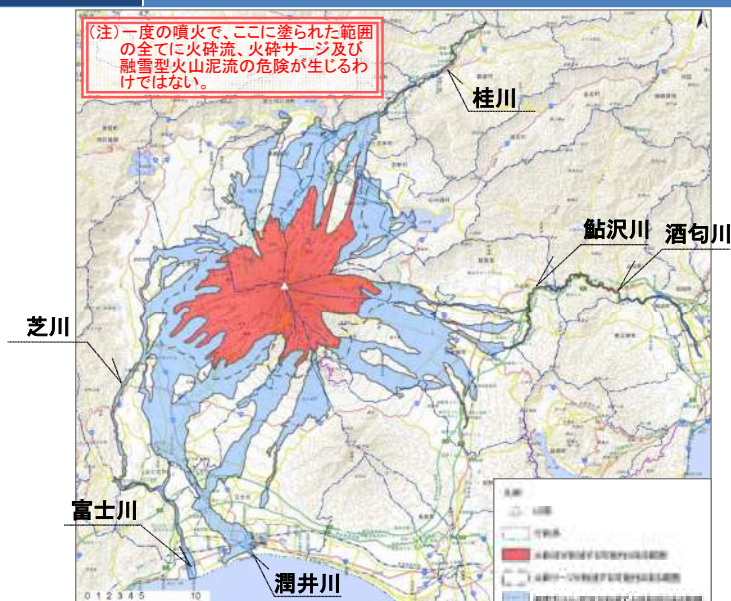
- 現行(平成16年版)に比べて、地形の精緻化及びシミュレーションの計算開始点の数を増やしたことにより、可能性マップの影響範囲がより地形の影響を反映した詳細なものとなった。
- 発生原因となる火砕流の想定噴出量の増大や地形データの精緻化に伴い、**融雪型火山泥流**が大きな河川等を流下し、**遠方まで届く結果となった**。

(旧) 融雪型火山泥流の可能性マップ (平成16年版)



- ※ 富士山において、融雪型火山泥流が発生した場合に到達する可能性のある範囲を網羅的に示すもの。
- ※ トリルマップを作成していない方向については、他の火山地域における泥流の停止勾配の実績値を基に、斜面勾配2度の地点を停止位置として到達する可能性のある範囲を設定した。

【新】 融雪型火山泥流の可能性マップ



- ※ 融雪型火山泥流のドリルマップを全て重ね最遠点を包絡線を書いて作成した。
- ※ 明瞭な尾根地形の陰となっている部分は到達可能性のある地域から除き、また包絡線の中に含まれていて周囲を融雪型火山泥流が流下する島状の地域は、そこに一次避難することが可能であると考えて可能性マップの範囲から除外した。

19

3. (6) 融雪型火山泥流の可能性マップ

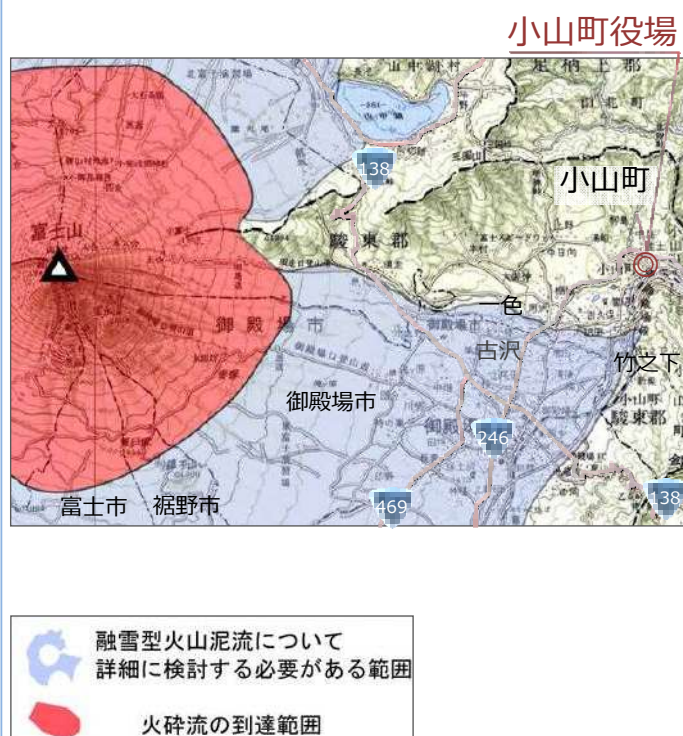


－小山町及びその周辺域－

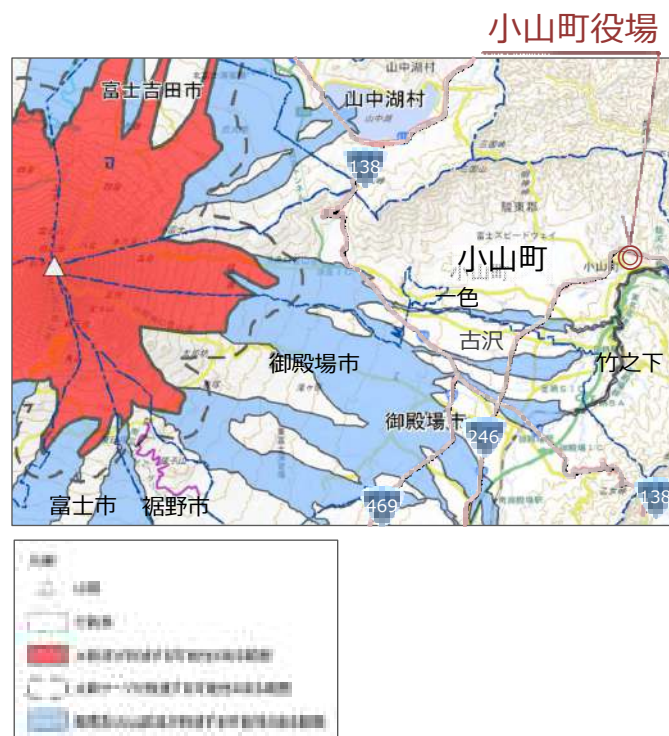
point

- 地形データの精緻化により、河川を流れて遠方まで到達する結果となった。
- 明らかな尾根地形については、融雪型火山泥流の到達範囲から除かれた。

【旧】 融雪型火山泥流の可能性マップ（平成16年版）



【新】 融雪型火山泥流の可能性マップ



20

3. (7) 融雪型火山泥流のドリルマップ



－小山町内を流れるケース－

危険度区分とは？

融雪型火山泥流が流れる速さや深さにより、どの地域でどの程度の危険があり、どのような避難が適切かをカラーレベルでその場所の危険度を表したもの。

融雪型火山泥流ドリルマップの1つの例



- 凡例
- △ 山頂
 - ＊ 計算開始点
 - 粉砕流 流下範囲
 - 集水域
 - 危険度区分
 - 十分な注意を払った上で、徒歩による避難が可能な条件の区域
 - 事前の避難または建物内での垂直避難が必要な区域
 - 事前の避難が必要な区域

カラーレベル	避難区分	説明
オレンジ	徒歩で避難可	流速が1m/s未満でかつ水深が20cm未満の値である地域は、床下浸水が想定されるものの、浸水箇所でも徒歩による避難が可能な条件の範囲として「十分な注意を払った上で、徒歩による避難が可能な範囲」とする。
赤	建物の2階以上へ避難可	朱色（上記）及び紫色（下記）にも属さない赤色の範囲は、高水位のため徒歩による避難は困難であるが、家屋の倒壊や2階への浸水は免れる範囲として「建物の2階以上に避難可能な範囲」とする。
紫	事前の避難が必要な区域	建物の倒壊または2階への浸水のおそれがある区域であることから「事前の避難が必要な区域」とする。

21

3. (8) 大きな噴石の可能性マップ

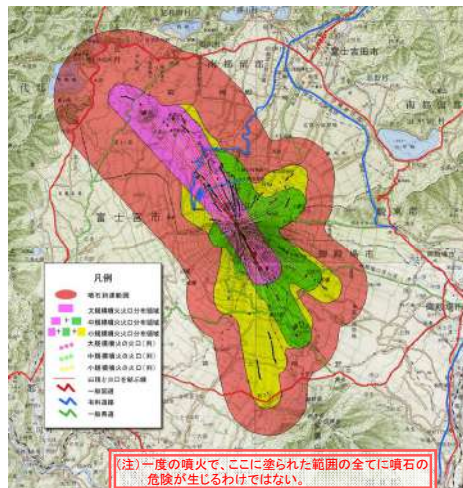
4 大きな噴石



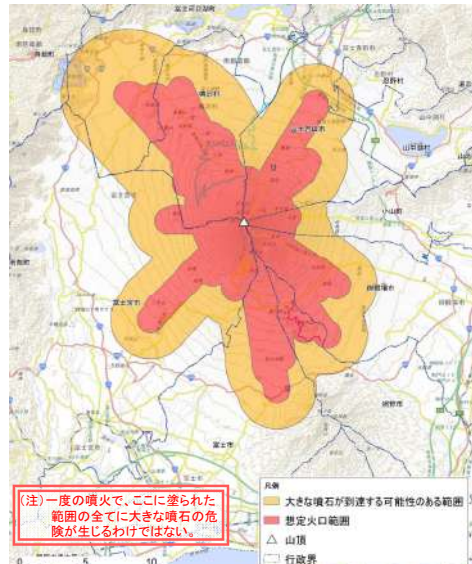
point

- 今回の改定により見直した想定火口範囲により、大きな噴石のハザードマップを再作成した。
- 大きな噴石の影響範囲は、平成16年版と同様、大規模噴火の想定火口範囲から4km、中小規模噴火の想定火口範囲から2kmを包絡する範囲としたが、想定火口範囲の拡大により、影響範囲が山頂から主に南西側（富士宮市方面）及び北東側（富士吉田市・忍野村方面）に広がった。

【旧】 噴石の可能性マップ（平成16年版）



【新】 大きな噴石の可能性マップ



- ※ 空気の抵抗を受けず放物線状に飛ぶ岩塊のうち直径数10cm以上の噴石を対象とした。
- ※ 噴石の到達範囲について、以下の条件のにより噴石の可能性マップを作成した。
 - ・ 大規模噴火の想定火口範囲の外縁から4kmの範囲。
 - ・ 中小規模噴火の想定火口範囲の外縁から2kmの範囲。

- ※ 気象庁の定義による概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けず弾道を描いて飛散する「大きな噴石」をハザードとし、大きな噴石の可能性マップを作成した。
- ※ 大きな噴石の到達範囲については平成16年富士山ハザードマップ検討委員会報告書以降、新たな知見が得られていないため、平成16年版と同様、左記の到達範囲とした。

富士山の火山防災体制について

富士山ハザードマップ（改定版）住民等説明会
日時：令和3年12月14日（火）
場所：小山町総合文化会館

静岡県危機管理部危機情報課
主 査 渡 邊 匡 央

0. 目次

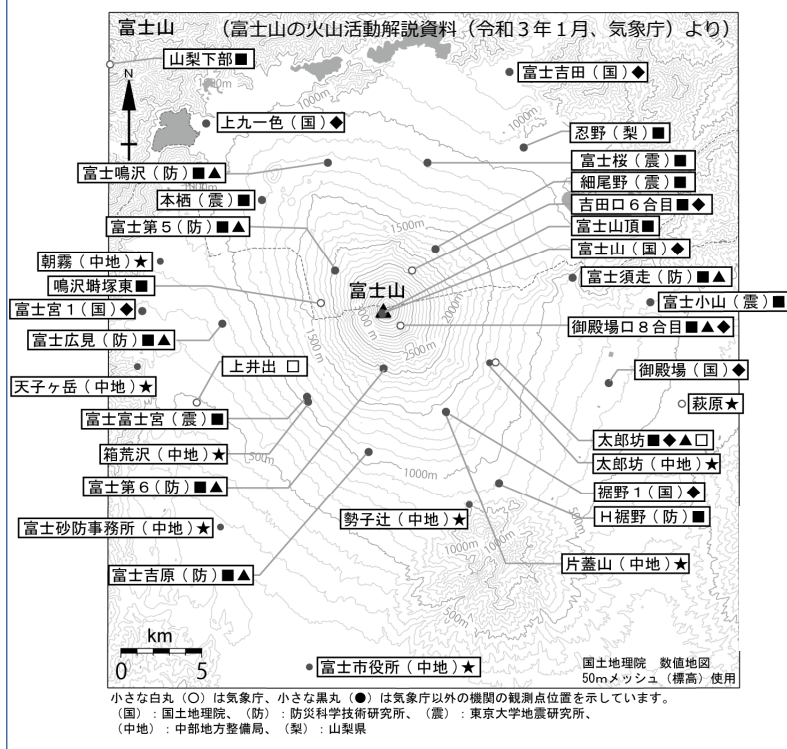
	参照ページ
1. 富士山における火山活動の観測・監視体制	p2
2. 噴火警報・予報とは	p3
3. 噴火警報の伝達手段	p4
4. 富士山における火山防災体制	p5
5. 噴火警戒レベルに応じた避難対応	p6
6. 広域避難者の受入地域と広域避難路	p11
7. 今後の取組について	p13

1. 富士山における火山活動の観測・監視体制

point

- 気象庁は噴火の前兆を捉えて噴火警報などを的確に発表するため、富士山周辺の観測施設を利用し、火山活動を24時間体制で監視しています。

富士山周辺の火山観測施設の分布図



火山観測機器



□ : 空振計



■ : 地震計



★ : 監視カメラ



▲ : 傾斜計



◆ : GNSS

(注) 写真は観測孔に埋設する前の傾斜計センサー

2

2. 噴火警報・予報とは

point

- 気象庁は、噴火警報・予報を発表し、火山活動の状況に応じて「警戒が必要な範囲（生命に危険を及ぼす範囲）」と防災機関や住民等の「とるべき防災対応」を5段階に区分した指標（「噴火警戒レベル」という）を示して警戒を呼びかける。

予報警報	対象範囲	レベル レベル	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者への対応
噴火警報	居住地域及びそれより火山口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性がある状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。
		4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性がある状態にある。	警戒が必要な居住地域での避難準備、災害時要援護者の避難等が必要。
火山口周辺警報	火山口周辺	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な被害を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生する可能性がある状態にある。	登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。
		2 (火山口周辺規制)	火山口周辺に被害を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生する可能性がある状態にある。	住民は通常の生活。火山口周辺への立入規制等。
噴火予報	火山口内等	1 (噴火予報)	火山活動は静穏。火山活動の状況によって、火山口内での噴火等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	特になし。

噴火警報 (居住地域)

避難等が必要な市町村：
A市、B市
入山規制等が必要な市町村：
C市、D市

(入山規制)

入山規制等が必要な市町村：
A市、B市、C市、D市

(火山口周辺規制)

入山規制等が必要な市町村：
A市、B市、D市

火山口周辺警報

※ 富士山の場合必ずしも山頂から噴火するとは限らない。

3

3. 噴火警報の伝達手段

point

○ 噴火警報等は、報道機関・都道府県・市町村等を通じて、防災無線やテレビ、ラジオ、SNS、スマートフォンのアプリ等により住民、登山者及び観光客などにお知らせします。

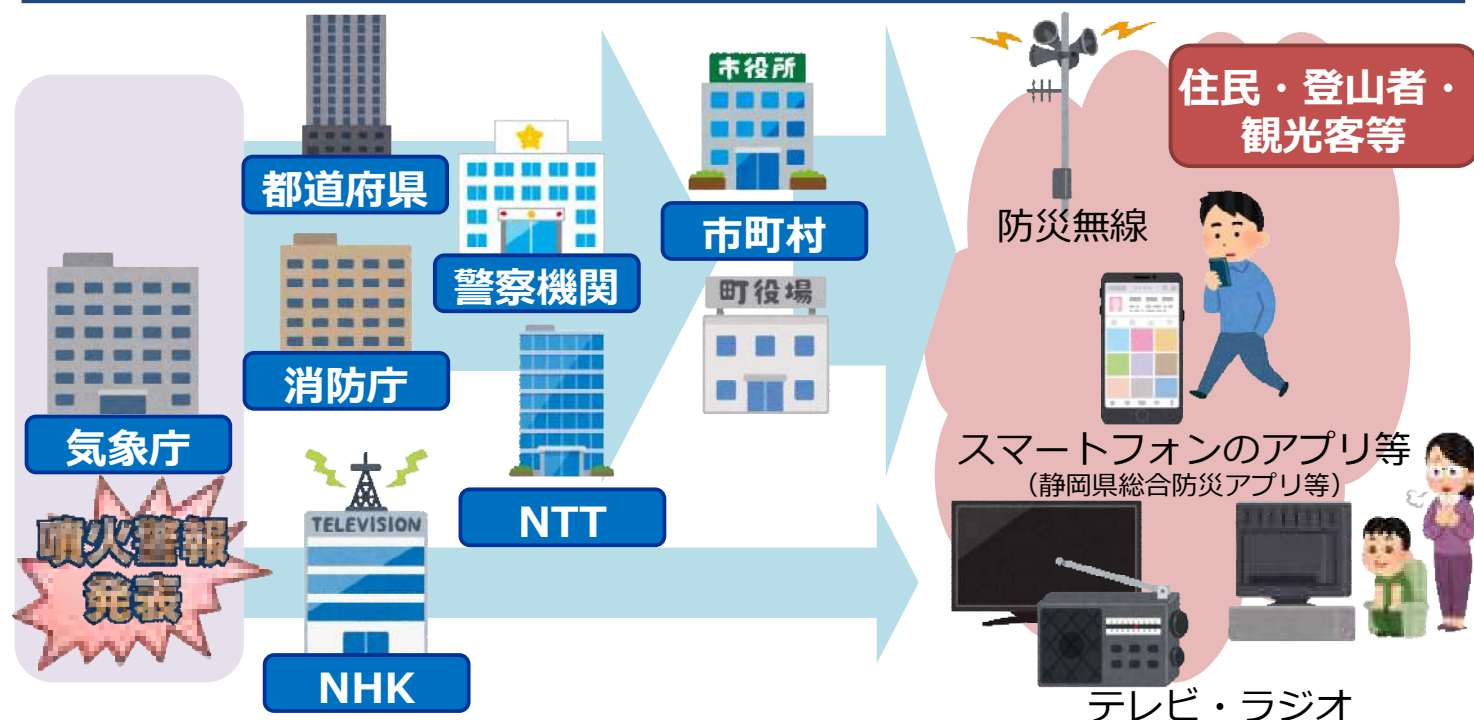
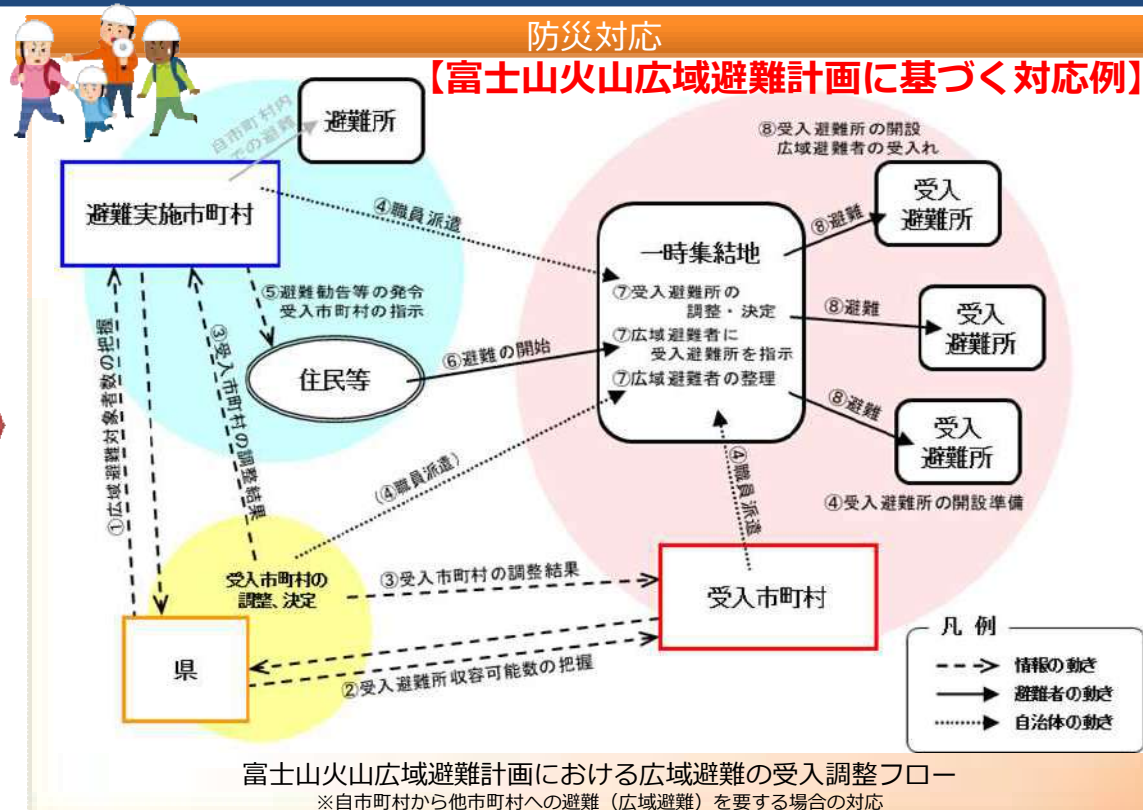


図 噴火警報等の伝達経路

4. 富士山における火山防災体制

point

○ 噴火警報が発表された場合、県と市町はあらかじめ決められた避難計画にもとづき、噴火警戒レベルに応じた入山規制や避難指示などの防災対応を取ることができる体制ができています。



5. 噴火警戒レベルに応じた避難対応

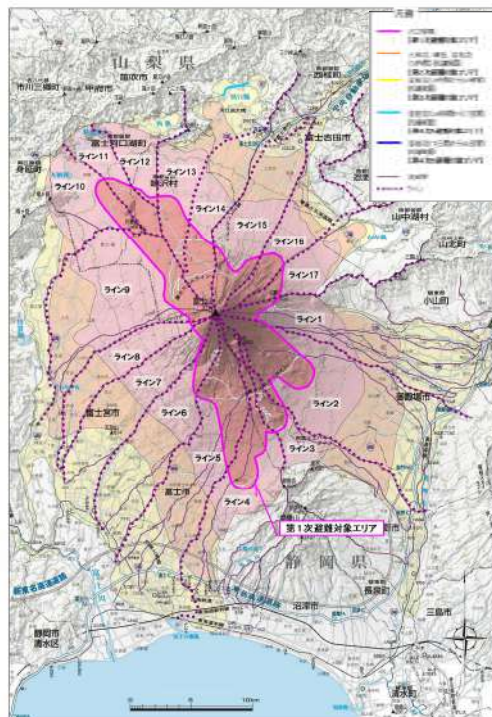
溶岩流



－溶岩流の場合－

※現行の富士山火山広域避難計画

噴火警戒レベル3



ラインとは
富士山の山頂から延びる尾根のうち比較的大きな17の尾根により、溶岩流の流下が想定される範囲を放射状に区分したものの。

* A : 第4次A避難対象エリアに溶岩流の流下の可能性がある場合
* B : 第4次B避難対象エリアに溶岩流の流下の可能性がある場合

表 噴火前（噴火警戒レベルの上昇）と噴火開始直後の避難

区分		溶岩流				
		第1次避難 対象エリア	第2次避難 対象エリア	第3次避難 対象エリア	第4次A避難 対象エリア	第4次B避難 対象エリア
噴火前	レベル3 噴火警戒	一般住民 避難行動 要支援者 観光客・ 登山者	避難 【全方位】	—	—	—
		一般住民	避難 【全方位】	避難準備 【全方位】	—	—
		避難行動 要支援者 観光客・ 登山者	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	—	—
	レベル4 噴火警戒	一般住民	避難 【全方位】	避難 【全方位】	避難準備 【全方位】	—
		避難行動 要支援者	避難 【全方位】	避難 【全方位】	—	—
		観光客・ 登山者	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	—
	レベル5 噴火警戒	一般住民	避難 【全方位】	避難 【全方位】	避難準備 【全方位】	—
		避難行動 要支援者	避難 【全方位】	避難 【全方位】	—	—
		観光客・ 登山者	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	—
噴火 開始 直後	一般住民 避難行動 要支援者 観光客・ 登山者	避難 【全方位】	避難 【全方位】	避難 【必要なライン】	避難準備 【必要なライン】 避難 【必要なライン】	—
		避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	—
		避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	—

表 噴火開始後の避難

区分		溶岩流				
		第1次避難 対象エリア	第2次避難 対象エリア	第3次避難 対象エリア	第4次A避難 対象エリア	第4次B避難 対象エリア
現象の発生		溶岩流の流下の場合				
噴火 開始 後	一般住民 避難行動 要支援者 観光客・ 登山者	避難 【対象ライン】	避難 【対象ライン】	避難 【対象ライン】	避難 【対象ライン】	避難準備 【対象ライン】 避難 【対象ライン】
		避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】
		避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】

6

5. 噴火警戒レベルに応じた避難対応

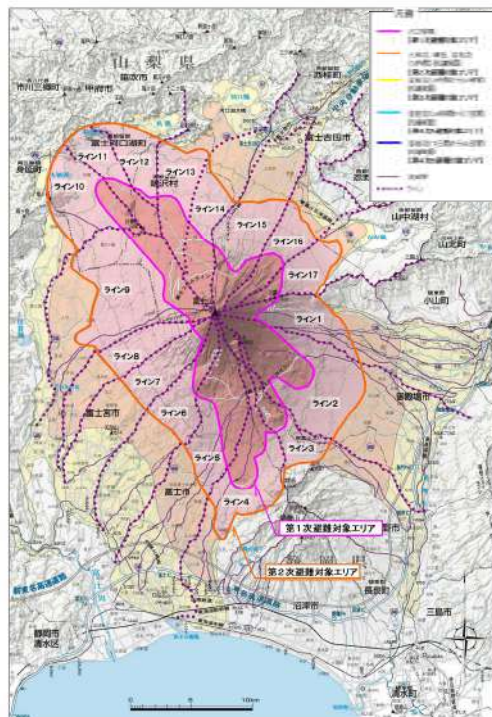
溶岩流



－溶岩流の場合－

※現行の富士山火山広域避難計画

噴火警戒レベル4



ラインとは
富士山の山頂から延びる尾根のうち比較的大きな17の尾根により、溶岩流の流下が想定される範囲を放射状に区分したものの。

* A : 第4次A避難対象エリアに溶岩流の流下の可能性がある場合
* B : 第4次B避難対象エリアに溶岩流の流下の可能性がある場合

表 噴火前（噴火警戒レベルの上昇）と噴火開始直後の避難

区分		溶岩流				
		第1次避難 対象エリア	第2次避難 対象エリア	第3次避難 対象エリア	第4次A避難 対象エリア	第4次B避難 対象エリア
噴火前	レベル3 噴火警戒	一般住民 避難行動 要支援者 観光客・ 登山者	避難 【全方位】	—	—	—
		一般住民	避難 【全方位】	避難準備 【全方位】	—	—
		避難行動 要支援者 観光客・ 登山者	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	—	—
	レベル4 噴火警戒	一般住民	避難 【全方位】	避難準備 【全方位】	—	—
		避難行動 要支援者	避難 【全方位】	避難 【全方位】	—	—
		観光客・ 登山者	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	—
	レベル5 噴火警戒	一般住民	避難 【全方位】	避難 【全方位】	避難準備 【全方位】	—
		避難行動 要支援者	避難 【全方位】	避難 【全方位】	—	—
		観光客・ 登山者	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	—
噴火 開始 直後	一般住民 避難行動 要支援者 観光客・ 登山者	避難 【全方位】	避難 【全方位】	避難 【必要なライン】	避難準備 【必要なライン】 避難 【必要なライン】	—
		避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	—
		避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	避難・入山規制 【全方位】	—

表 噴火開始後の避難

区分		溶岩流				
		第1次避難 対象エリア	第2次避難 対象エリア	第3次避難 対象エリア	第4次A避難 対象エリア	第4次B避難 対象エリア
現象の発生		溶岩流の流下の場合				
噴火 開始 後	一般住民 避難行動 要支援者 観光客・ 登山者	避難 【対象ライン】	避難 【対象ライン】	避難 【対象ライン】	避難 【対象ライン】	避難準備 【対象ライン】 避難 【対象ライン】
		避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】
		避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】	避難・入山規制 【対象ライン】

7

5. 噴火警戒レベルに応じた避難対応

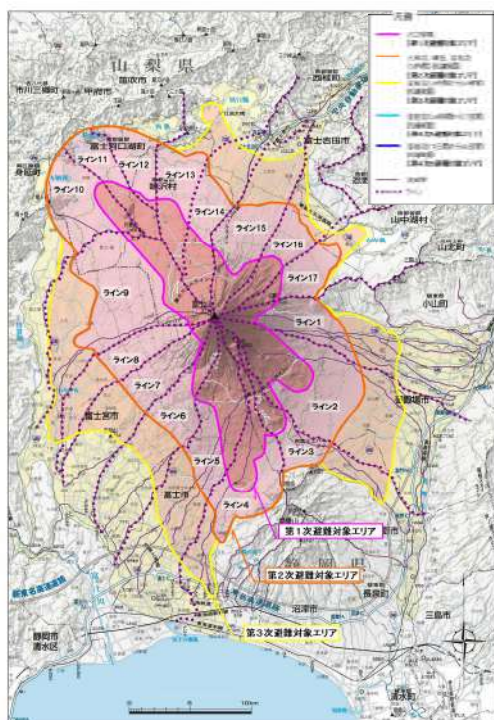
溶岩流



－溶岩流の場合－

※現行の富士山火山広域避難計画

噴火警戒レベル5



ラインとは
富士山の山頂から延びる尾根のうち比較的大きな17の尾根により、溶岩流の流下が想定される範囲を放射状に区分したものの。

* A : 第4次A避難対象エリアに溶岩流の流下の可能性がある場合
* B : 第4次B避難対象エリアに溶岩流の流下の可能性がある場合

表 噴火前（噴火警戒レベルの上昇）と噴火開始直後の避難

区分			溶岩流			
			第1次避難対象エリア	第2次避難対象エリア	第3次避難対象エリア	第4次A避難対象エリア 第4次B避難対象エリア
噴火前	レベル3 噴火警戒	一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	—	—	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—
	レベル4 噴火警戒	一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—
噴火開始直後	レベル5 噴火警戒	一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—

表 噴火開始後の避難

区分			溶岩流			
			第1次避難対象エリア	第2次避難対象エリア	第3次避難対象エリア	第4次A避難対象エリア 第4次B避難対象エリア
現象の発生			溶岩流の流下の場合			
噴火開始直後	一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	*A 避難準備【対象ライン】 避難【対象ライン】
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	*B 避難【対象ライン】
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	—

8

5. 噴火警戒レベルに応じた避難対応

溶岩流

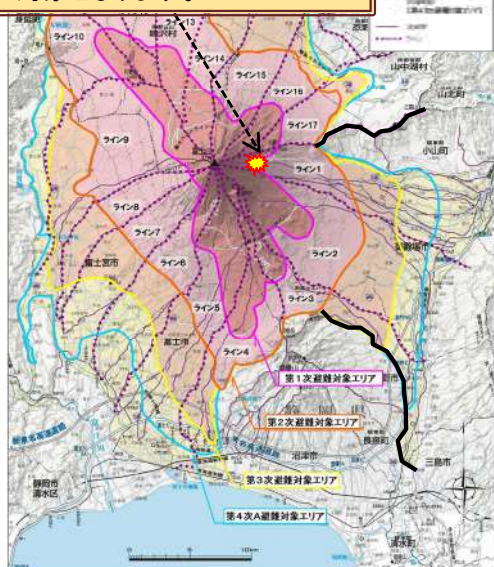


－溶岩流の場合－

※現行の富士山火山広域避難計画

噴火開始直後

仮にここで噴火した場合、第3次～第4次A避難対象エリア内は必要なラインの地域の方が避難の対象となります。



ラインとは
富士山の山頂から延びる尾根のうち比較的大きな17の尾根により、溶岩流の流下が想定される範囲を放射状に区分したものの。

* A : 第4次A避難対象エリアに溶岩流の流下の可能性がある場合
* B : 第4次B避難対象エリアに溶岩流の流下の可能性がある場合

表 噴火前（噴火警戒レベルの上昇）と噴火開始直後の避難

区分			溶岩流			
			第1次避難対象エリア	第2次避難対象エリア	第3次避難対象エリア	第4次A避難対象エリア 第4次B避難対象エリア
噴火前	レベル3 噴火警戒	一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	—	—	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—
	レベル4 噴火警戒	一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—
噴火開始直後	レベル5 噴火警戒	一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【全方位】	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—

表 噴火開始後の避難

区分			溶岩流			
			第1次避難対象エリア	第2次避難対象エリア	第3次避難対象エリア	第4次A避難対象エリア 第4次B避難対象エリア
現象の発生			溶岩流の流下の場合			
噴火開始直後	一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	*A 避難準備【対象ライン】 避難【対象ライン】
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	*B 避難【対象ライン】
		一般住民 避難行動要支援者 観光客・登山者	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	—

9

5. 噴火警戒レベルに応じた避難対応

溶岩流



－溶岩流の場合－

※現行の富士山火山広域避難計画

噴火開始後

仮にここで噴火した場合、ライン1～3の範囲に囲まれた第1次～第4次B避難対象エリア内の方が避難の対象となります。



ラインとは
富士山の山頂から延びる尾根のうち比較的大きな17の尾根により、溶岩流の流下が想定される範囲を放射状に区分したもの。

* A : 第4次A避難対象エリアに溶岩流の流下の可能性がある場合
* B : 第4次B避難対象エリアに溶岩流の流下の可能性がある場合

表 噴火前（噴火警戒レベルの上昇）と噴火開始直後の避難

区分			溶岩流				
			第1次避難対象エリア	第2次避難対象エリア	第3次避難対象エリア	第4次A避難対象エリア	第4次B避難対象エリア
噴火前	レベル3 噴火警戒	一般住民	避難【全方位】	—	—	—	—
		避難行動要支援者 観光客・登山者	避難・入山規制【全方位】	—	—	—	—
	レベル4 噴火警戒	一般住民	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—	—
		避難行動要支援者 観光客・登山者	避難・入山規制【全方位】	避難・入山規制【全方位】	—	—	—
	レベル5 噴火警戒	一般住民	避難【全方位】	避難【全方位】	避難準備【全方位】	—	—
		避難行動要支援者 観光客・登山者	避難・入山規制【全方位】	避難・入山規制【全方位】	避難・入山規制【全方位】	—	—
噴火開始直後	—	一般住民	避難【全方位】	避難【全方位】	避難【必要なライン】	避難準備【必要なライン】	—
		避難行動要支援者	避難【全方位】	避難【全方位】	避難【必要なライン】	避難【必要なライン】	—
		観光客・登山者	避難・入山規制【全方位】	避難・入山規制【全方位】	避難・入山規制【必要なライン】	避難・入山規制【必要なライン】	—

表 噴火開始後の避難

区分			溶岩流				
			第1次避難対象エリア	第2次避難対象エリア	第3次避難対象エリア	第4次A避難対象エリア	第4次B避難対象エリア
現象の発生			溶岩流の流下の場合				
噴火開始後	一般住民	避難	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難準備【対象ライン】
		避難行動要支援者	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】	避難【対象ライン】
		観光客・登山者	避難・入山規制【対象ライン】	避難・入山規制【対象ライン】	避難・入山規制【対象ライン】	避難・入山規制【対象ライン】	避難・入山規制【対象ライン】

6. 広域避難者の受入地域と広域避難路

※現行の富士山火山広域避難計画

point

- 富士東麓の避難実施市町（小山町、御殿場市、裾野市）は受入地域A、B、C、D、Fに避難する。
- 富士西麓の避難実施市町（富士宮市、富士市）は受入地域D、E、F、Gに広域避難する。

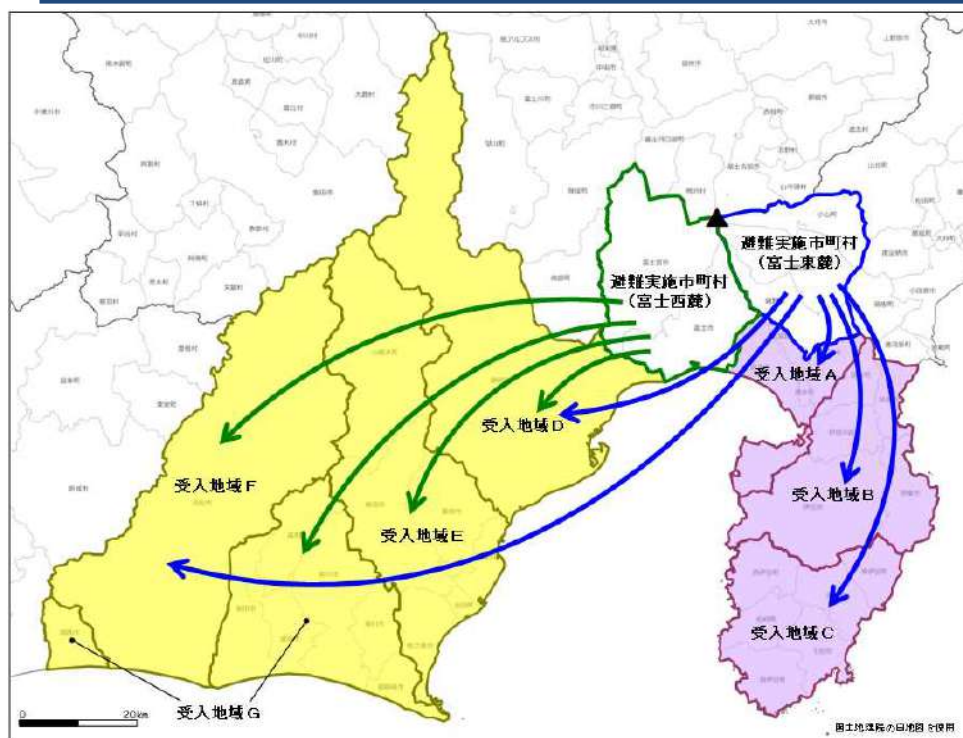


表 各受入地域内の受入市町（静岡県）

地域	市町名
受入地域A	沼津市、三島市、清水町、長泉町
受入地域B	熱海市、伊東市、伊豆市、伊豆の国市、函南町
受入地域C	下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町
受入地域D	静岡市
受入地域E	島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町
受入地域F	浜松市
受入地域G	磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、森町

図 広域避難者の受入地域（静岡県）

6. 広域避難者の受入地域と広域避難路

※現行の富士山火山広域避難計画

point

- 広域避難を円滑に実施するため、広域避難の軸となる路線、区間を広域避難路として指定している。



図 広域避難路

12

7. 今後の取組について

令和3年3月富士山ハザードマップの改定

令和3年度「富士山火山広域避難計画」の改定作業

- 改定版ハザードマップを反映
- 避難対象エリア及び避難対象者などの見直し

国・県・市町

- 地域防災計画等への反映
- 火山防災マップの作成
- 防災マップや避難計画に関する住民への周知・広報
- 新たな避難計画に対応した訓練の実施
- 避難促進施設の指定（第1次・第2次避難対象エリア内の対象とする未指定の施設）

住民・事業者の皆様

- 企業の事業継続計画への反映
- 避難訓練への参加
- 地区防災計画の作成
- 避難促進施設の避難確保計画の作成

13

静岡県危機情報課ホームページ

ホーム > 組織別情報 > 危機管理部 > 静岡県危機管理部危機情報課 > 富士山火山防災対策 > [富士山ハザードマップ（令和3年3月改定）](http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisanhazardmap.html)
URL：
<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/fujisanhazardmap.html>

または



静岡県危機情報課 富士山ハザードマップ

融雪型火山泥流

- ・融雪型火山泥流の計算開始位置一覧図（危険度区分・到達時間・最大流動深共通）（PDF：1,982KB）
- ・融雪型火山泥流ドリルマップ（危険度区分）（PDF：5,784KB）
- ・融雪型火山泥流ドリルマップ（到達時間）（PDF：5,518KB）
- ・融雪型火山泥流ドリルマップ（最大流動深）（PDF：5,603KB）
- ・融雪型火山泥流の可能性マップ（到達範囲）（PDF：1,405KB）
- ・融雪型火山泥流の可能性マップ（到達時間）（PDF：1,926KB）

大きな噴石

- ・「大きな噴石」の可能性マップ（PDF：556KB）

降灰・降灰後土石流

- ・降灰の可能性マップ（PDF：539KB）
- ・降灰後土石流の可能性マップ（PDF：508KB）

ハザード統合マップ

- ・ハザード統合マップ（PDF：683KB）



想定火口範囲

- ・想定火口範囲（PDF：1,747KB）

溶岩流

小規模噴火の溶岩流ドリルマップ

- ・計算開始位置一覧図（小規模噴火）（PDF：2,408KB）
- ・小規模溶岩流ドリルマップ（S1-S46）（PDF：7,153KB）
- ・小規模溶岩流ドリルマップ（S47-S92）（PDF：6,189KB）

中規模噴火の溶岩流ドリルマップ

- ・計算開始位置一覧図（中規模噴火）（PDF：2,094KB）
- ・中規模溶岩流ドリルマップ（M1-M45）（PDF：5,762KB）
- ・中規模溶岩流ドリルマップ（M46-M91）（PDF：6,197KB）

大規模噴火の溶岩流ドリルマップ

- ・計算開始位置一覧図（大規模噴火）（PDF：1,996KB）
- ・大規模溶岩流ドリルマップ（L1-L38）（PDF：4,204KB）
- ・大規模溶岩流ドリルマップ（L39-L69）（PDF：4,220KB）

溶岩流の可能性マップ

- ・溶岩流の可能性マップ（PDF：918KB）

火砕流

- ・火砕流の計算開始位置一覧図（PDF：1,864KB）
- ・火砕流ドリルマップ（PDF：9,463KB）
- ・火砕流・火砕サージの可能性マップ（PDF：1,185KB）



富士山ハザードマップ改定に関する 小山町の取り組み等について

小山町危機管理局



富士山ハザードマップ改定に関する 小山町の取り組み等について

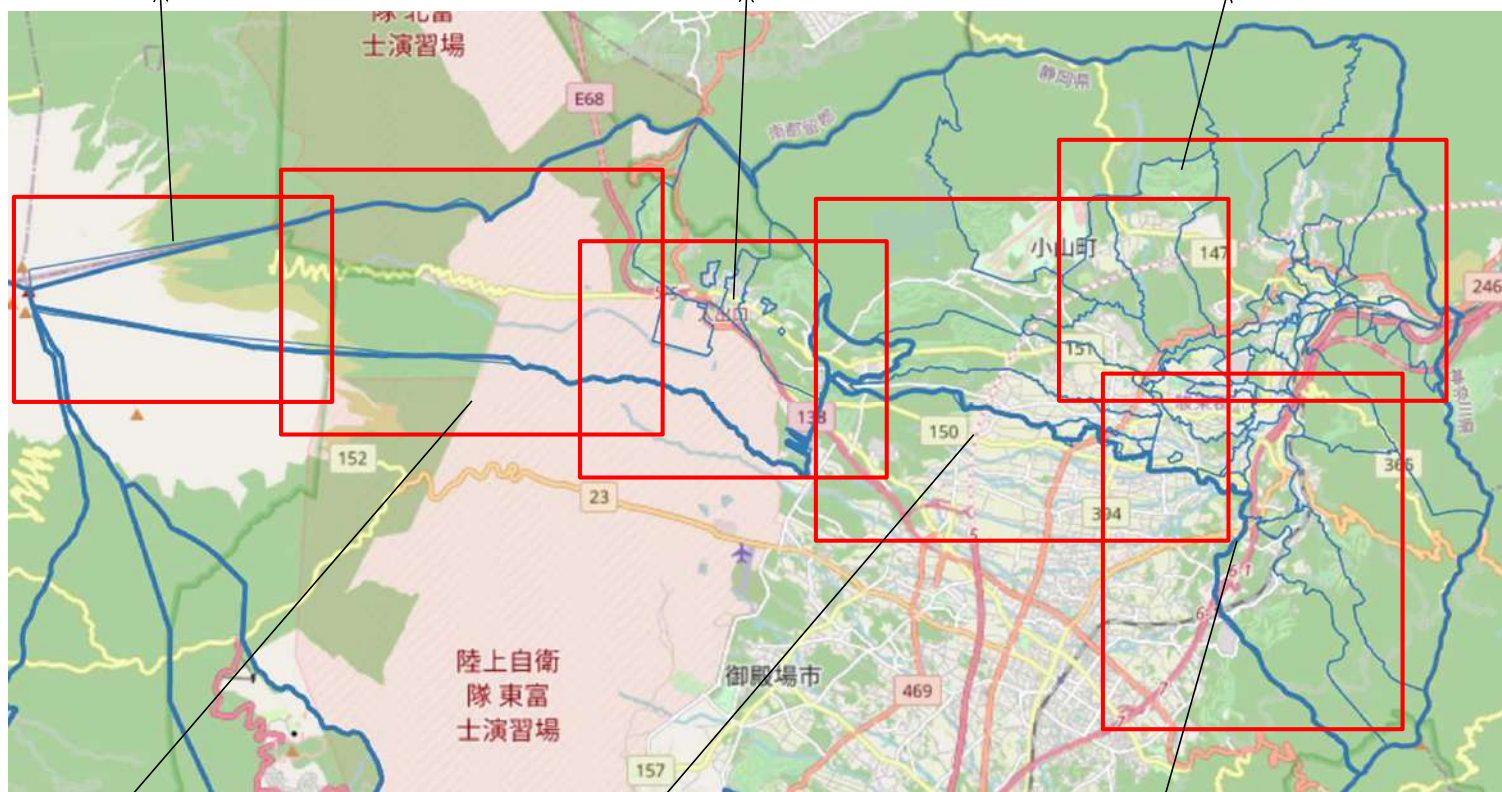
- 1 地域別の噴火想定
- 2 課題認識等
- 3 今後の検討要領等

1 地域別の噴火想定

①山頂～5合目付近

③須走地区

⑥成美地区

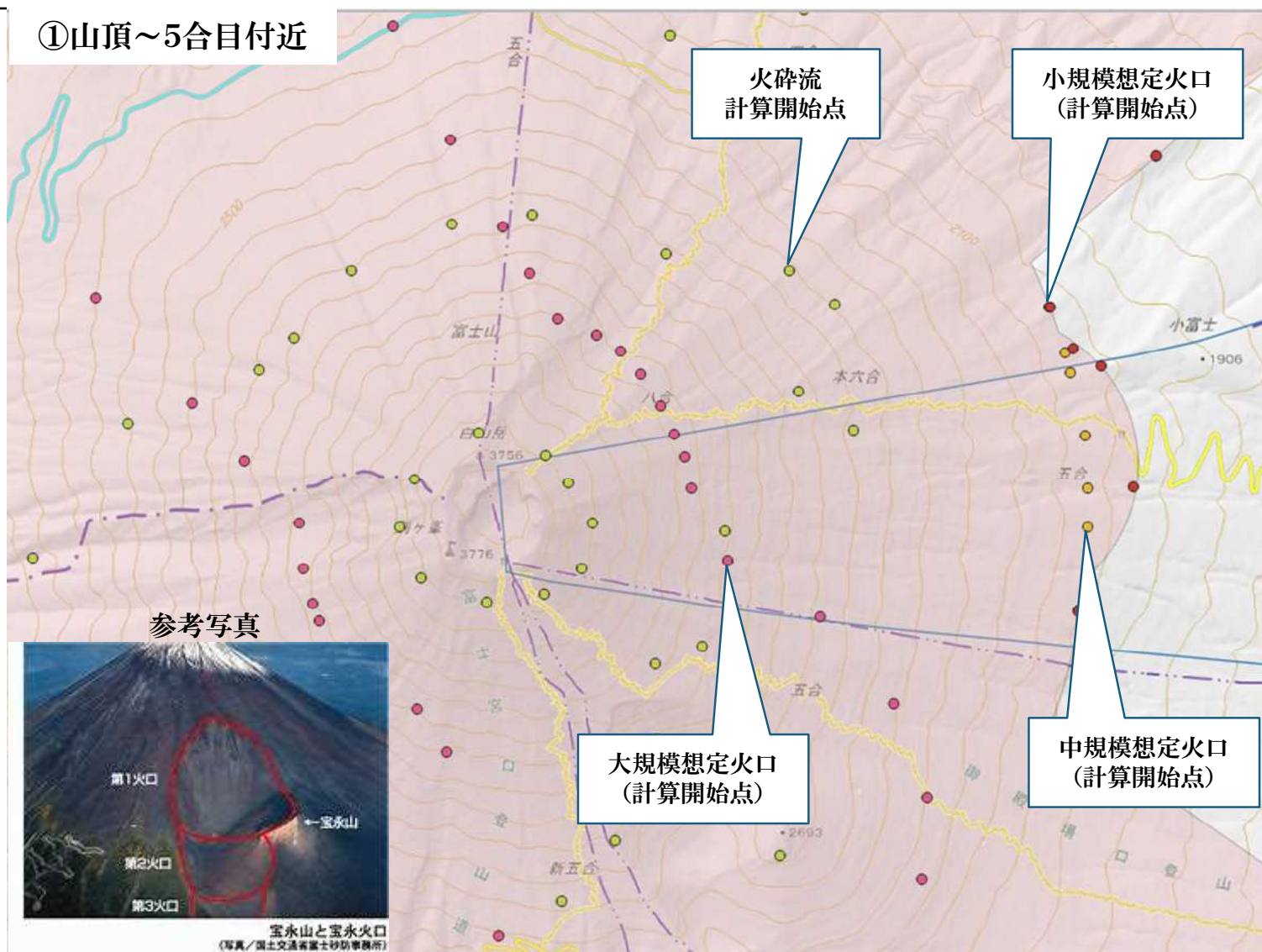


②5合目～演習場地域

④北郷地区

⑤明倫・足柄地区

①山頂～5合目付近



火砕流
計算開始点

小規模想定火口
(計算開始点)

大規模想定火口
(計算開始点)

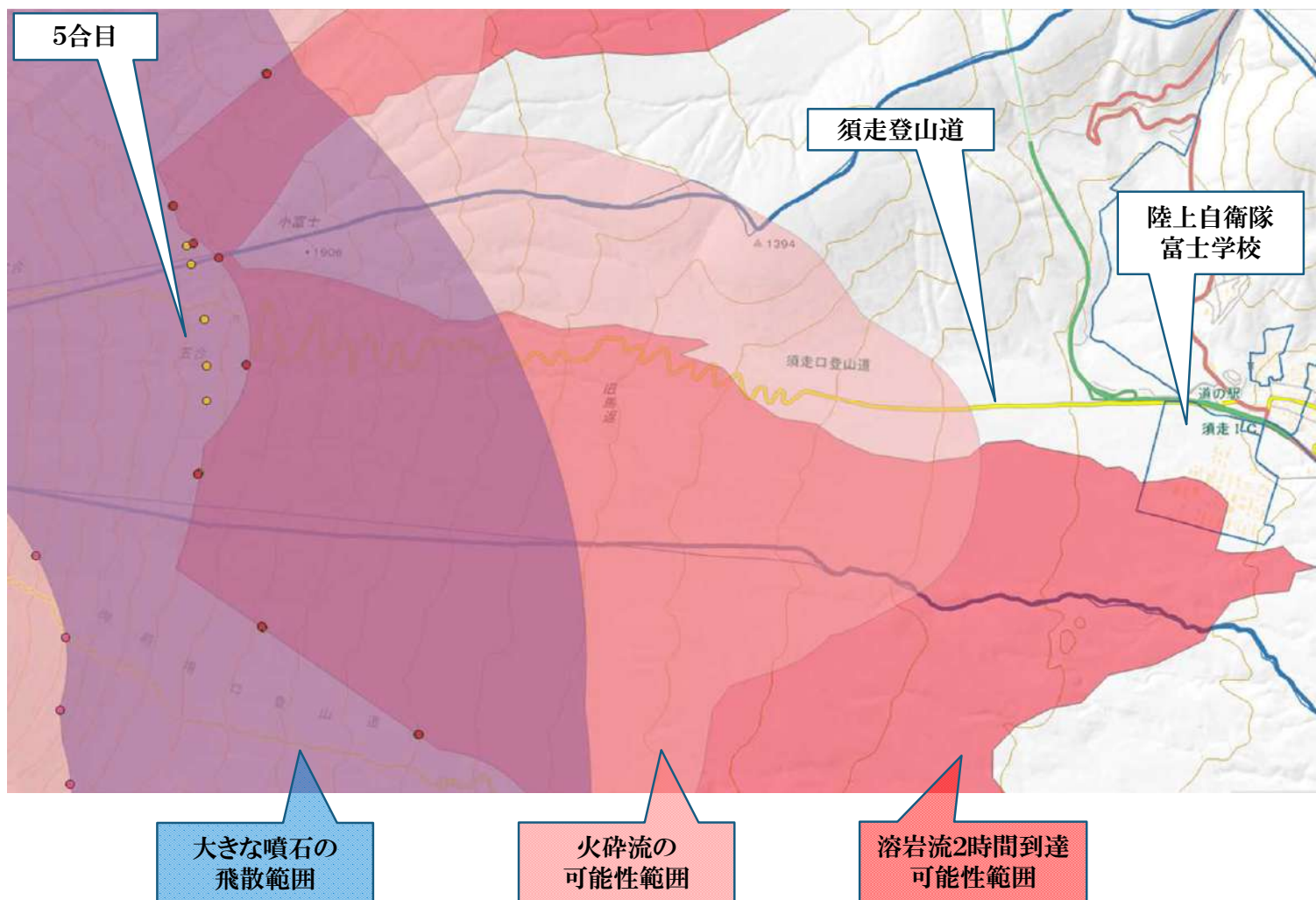
中規模想定火口
(計算開始点)

参考写真

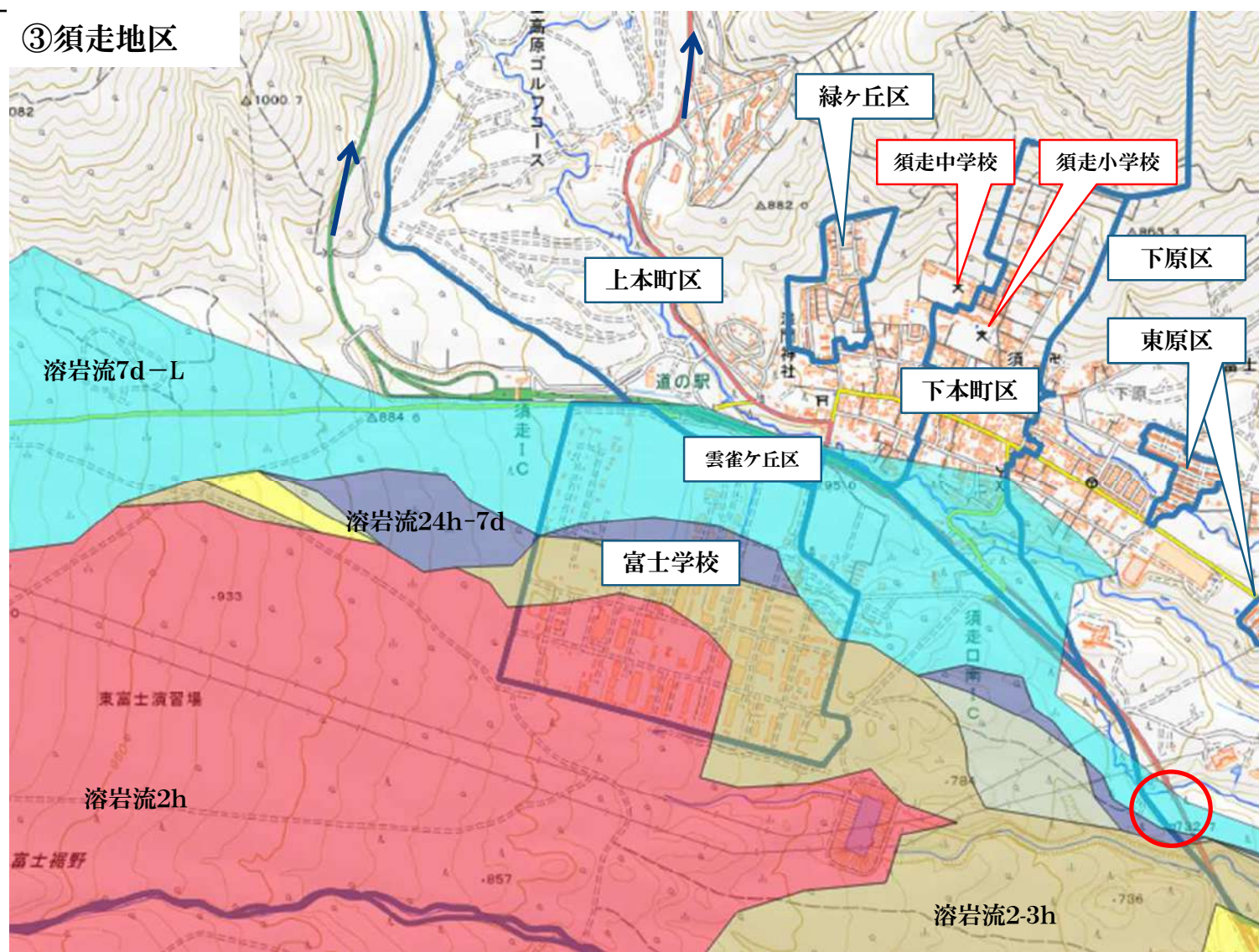


宝永山と宝永火口
《写真/国土交通省富士砂防事務所》

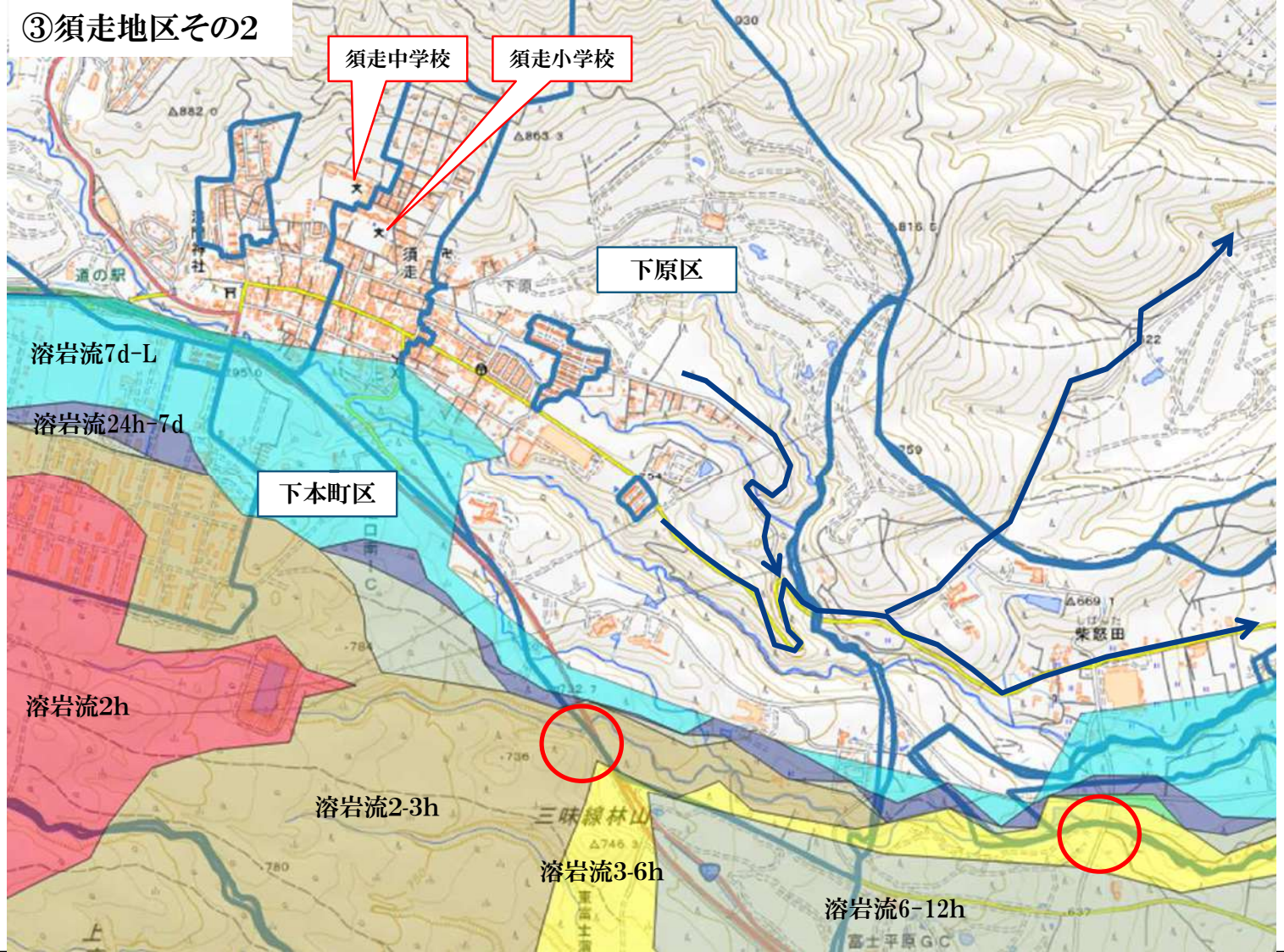
②5合目～演習場地域(可能性マップ)



③須走地区



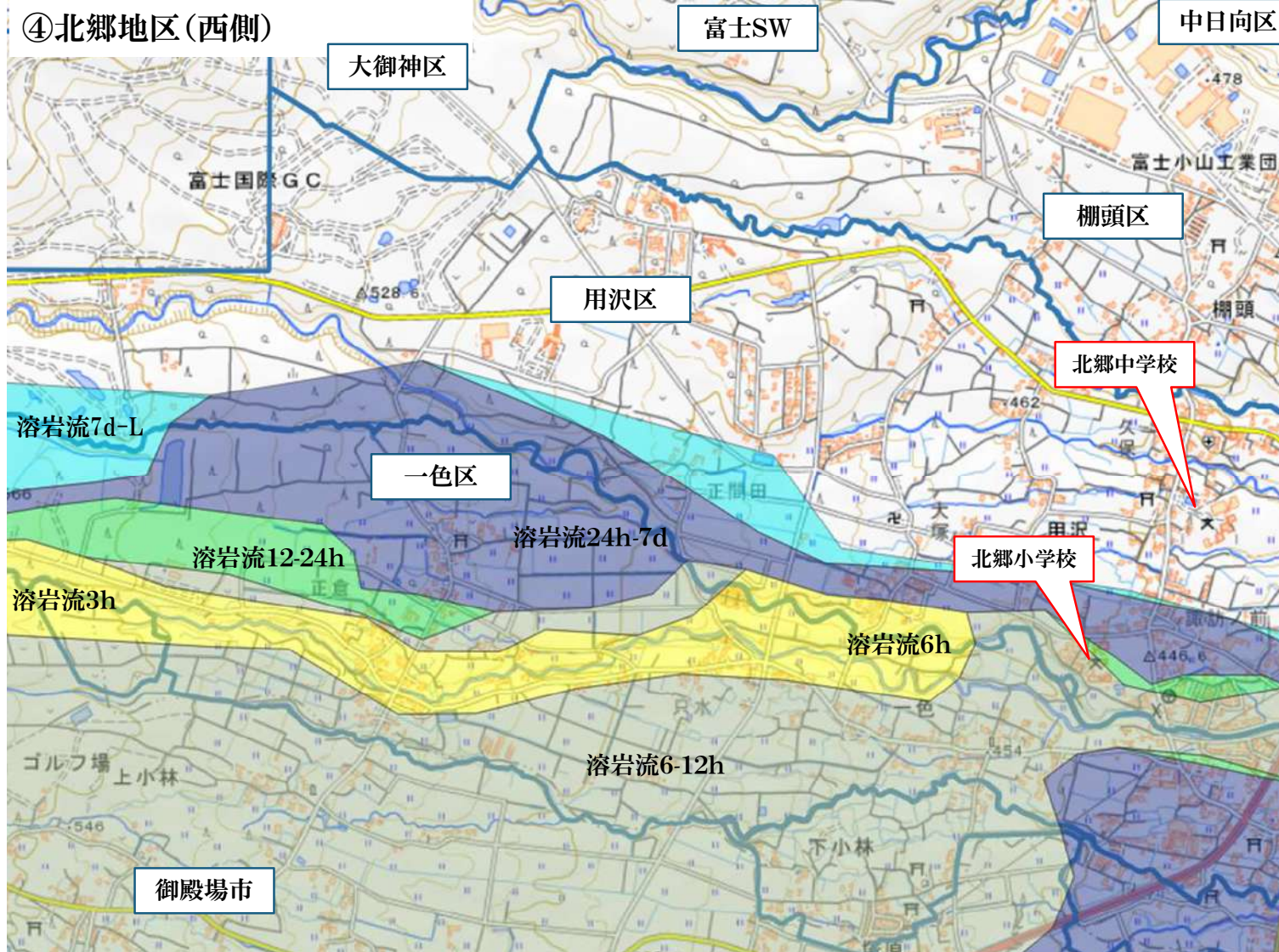
③須走地区その2



③須走地区(融雪型火山泥流)



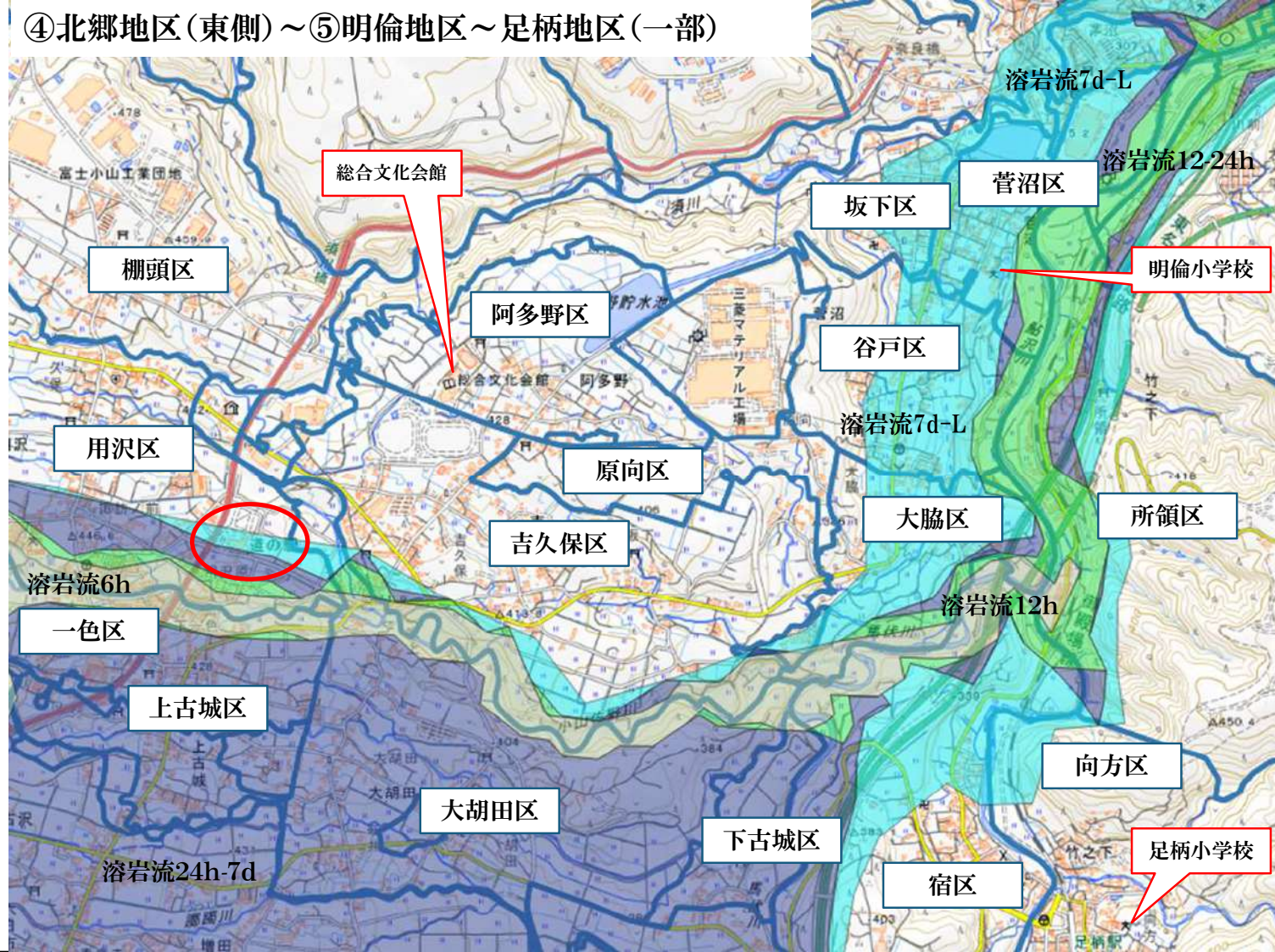
④北郷地区(西側)



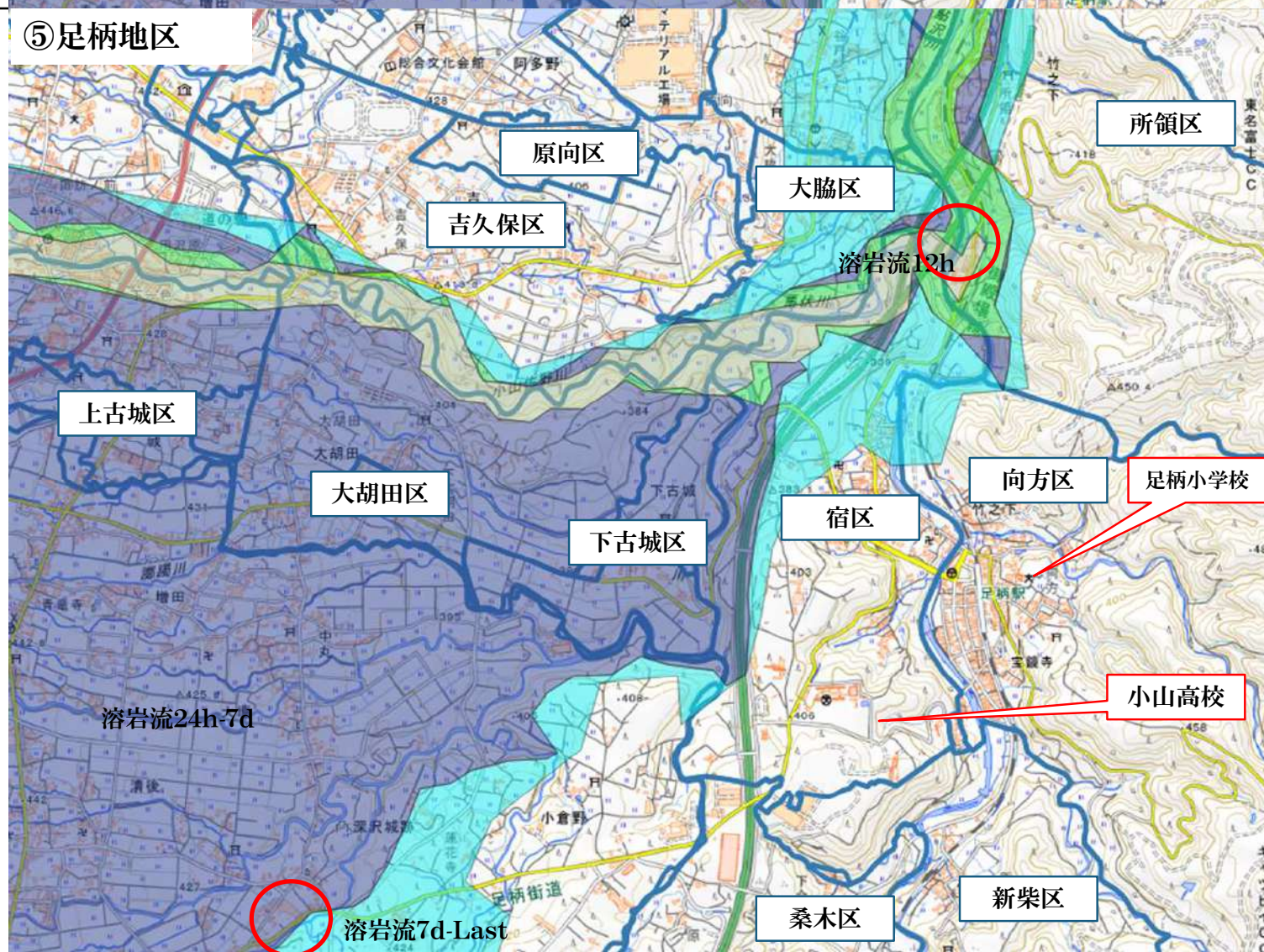
④北郷地区(西側) (融雪型火山泥流)



④北郷地区(東側)～⑤明倫地区～足柄地区(一部)



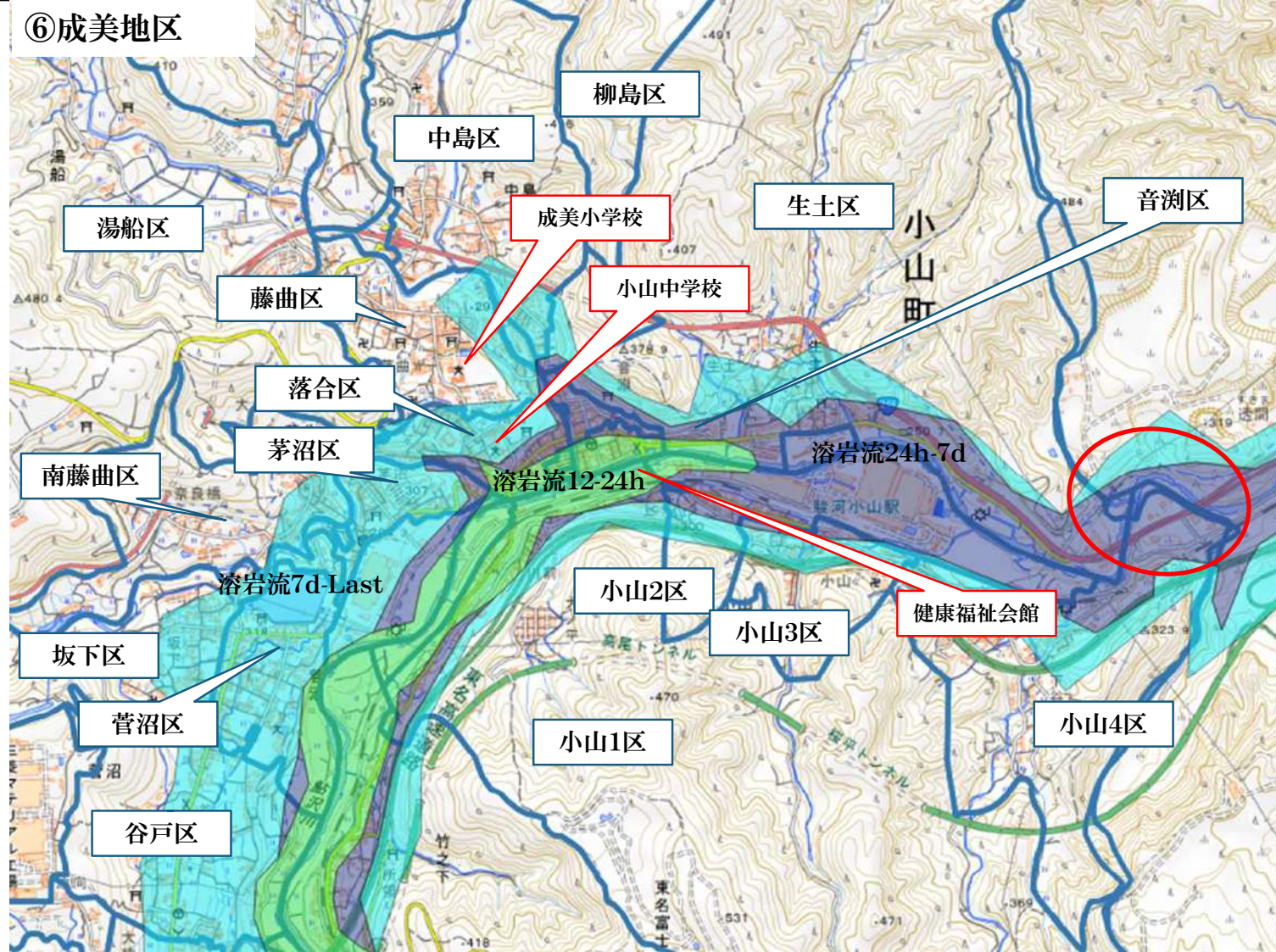
⑤足柄地区



⑤足柄地区(融雪型火山泥流)

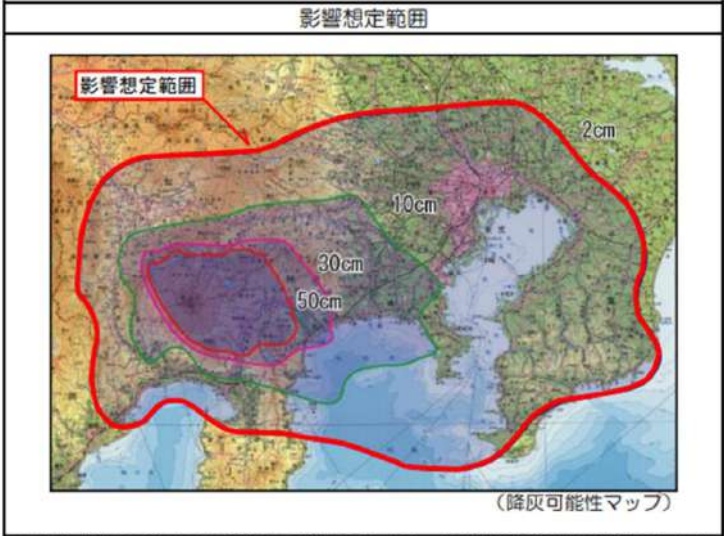


⑥成美地区



降灰の影響

図 12 降灰の影響想定範囲と避難対象エリアの例



※宝永規模の噴火の月別降灰分布図を12ヶ月分重ね合わせた図(富士山ハザードマップ検討委員会報告書(平成16年)から引用)

表 10 降灰避難対象エリアの設定

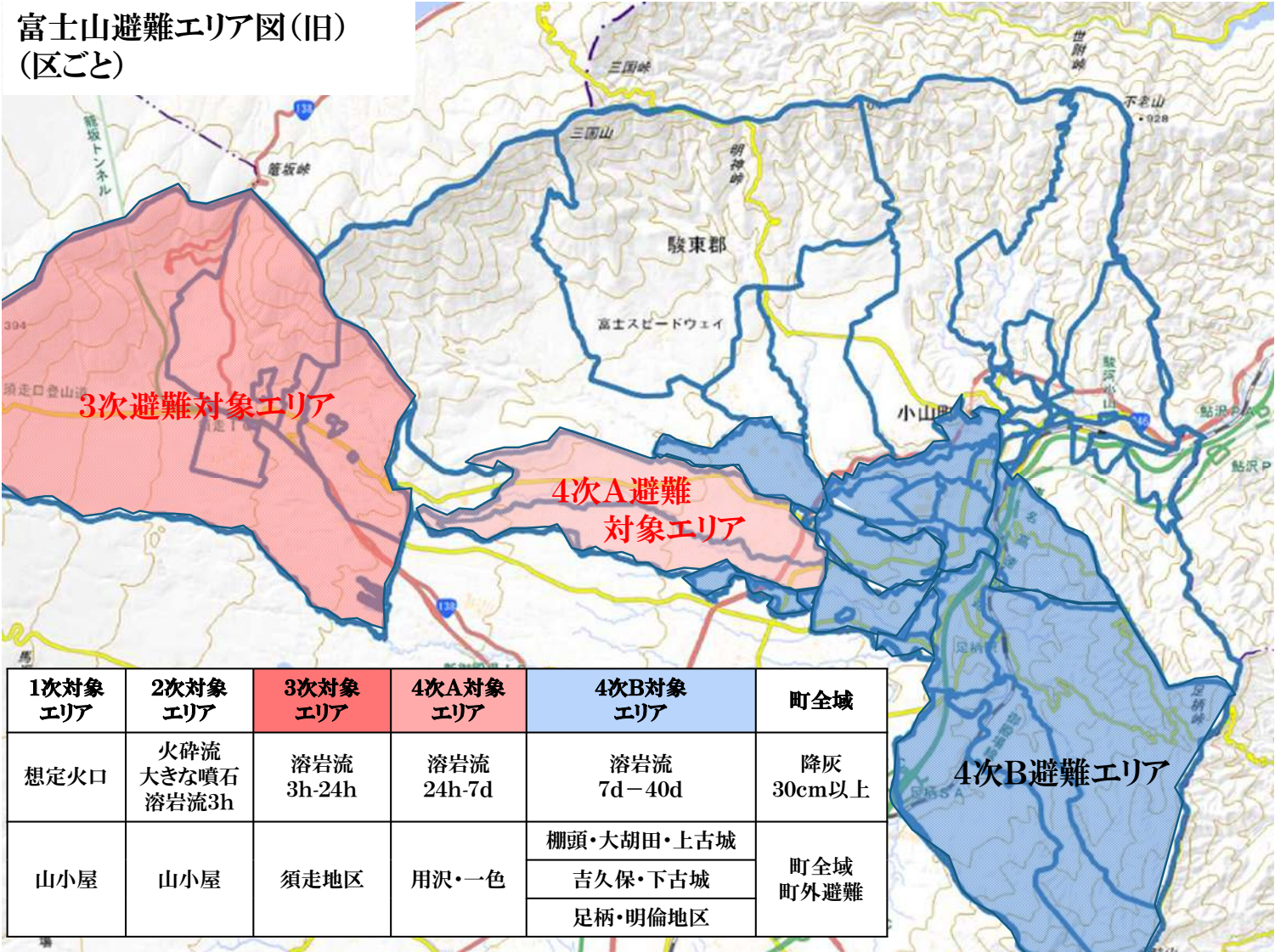
避難対象	説明
影響想定範囲	降灰可能性マップの示す範囲(降灰堆積深2cm以上)
避難対象エリア	降灰堆積深が30cm以上になると想定される範囲 ※1※2※
屋内避難対象エリア	降灰堆積深が30cm未満と想定される範囲 ※2

- ※1 避難対象エリアの基準となる降灰堆積深は、今後さらに検討を進め、必要に応じて見直しを行うこともある。
- ※2 気象庁が予め実施したシミュレーション結果を基に、噴火の可能性が高まった段階で風向等の気象条件等を加味して判断する。また、気象庁が噴煙等の観測結果を基にリアルタイムで実施するシミュレーション結果も参考にする。
- ※3 降灰堆積状況の観測により得られた降灰分布図も参考にする。

●気象庁降灰シミュレーションによる避難(現行計画)

- 避難対象エリア → 避難
- 屋内避難対象エリア → 屋内退避
- 降灰が、30cm以上の場合 → 町外避難

富士山避難エリア図(旧)
(区ごと)



1次対象 エリア	2次対象 エリア	3次対象 エリア	4次A対象 エリア	4次B対象 エリア	町全域
想定火口	火砕流 大きな噴石 溶岩流3h	溶岩流 3h-24h	溶岩流 24h-7d	溶岩流 7d-40d	降灰 30cm以上
山小屋	山小屋	須走地区	用沢・一色	棚頭・大胡田・上古城 吉久保・下古城 足柄・明倫地区	町全域 町外避難

1次対象 エリア	2次対象 エリア	3次対象 エリア	4次A対象 エリア	4次B対象 エリア	町全域 (左エリア外)
想定 火口	火砕流 大きな噴石 溶岩流3h	溶岩流 3h-24h	溶岩流 24h-7d	溶岩流 7d-40d	降灰 30cm以上
山小屋	山小屋 須走(一部)	須走、一色・用沢・上古城 ・吉久保・大胡田・下古城 ・菅沼・茅沼・大脇・谷戸 ・宿・所領・小山1~4区 ・音測・落合・生土	・坂下 ・向方 ・中島	・南藤曲 ・藤曲 ・新柴 ・桑木	・柳島・湯船 ・原向・棚頭 ・大御神・中日向 ・上野・阿多野

2 課題認識等

主要な現象	課題認識	処置の方向性
溶岩等の流下速度が非常に速い	噴火後の避難では、適切な避難ができない可能性	<u>噴火の兆候段階</u> における <u>早期の避難</u> を検討
融雪型火山泥流の発生	須走地区(富士学校含む)・北郷地区・河川流域における被害の発生	① <u>事前の避難</u> を検討 ② <u>噴火発生前・発生直後の警報伝達</u> (特に、流下予想地域) ③ <u>融雪型火山泥流の危険性の周知</u>
溶岩流などによる道路・橋梁の通行不能の可能性	噴火後24h程度で、小山町のライフラインが途絶する場合の処置	①早期の避難 ②役場機能の早期移転 ③ <u>逃げ遅れの住民等に対する措置</u>
上記の複合した現象が、本町に発生	現行の避難計画から、より今回の想定に合わせた計画へ修正が必要	①避難計画暫定案の策定 ②県広域避難計画策定時の町意見提出・調整 ③町避難計画の策定 ④計画の周知 ⑤住民等避難訓練の実施

噴火の兆候段階とは・・・



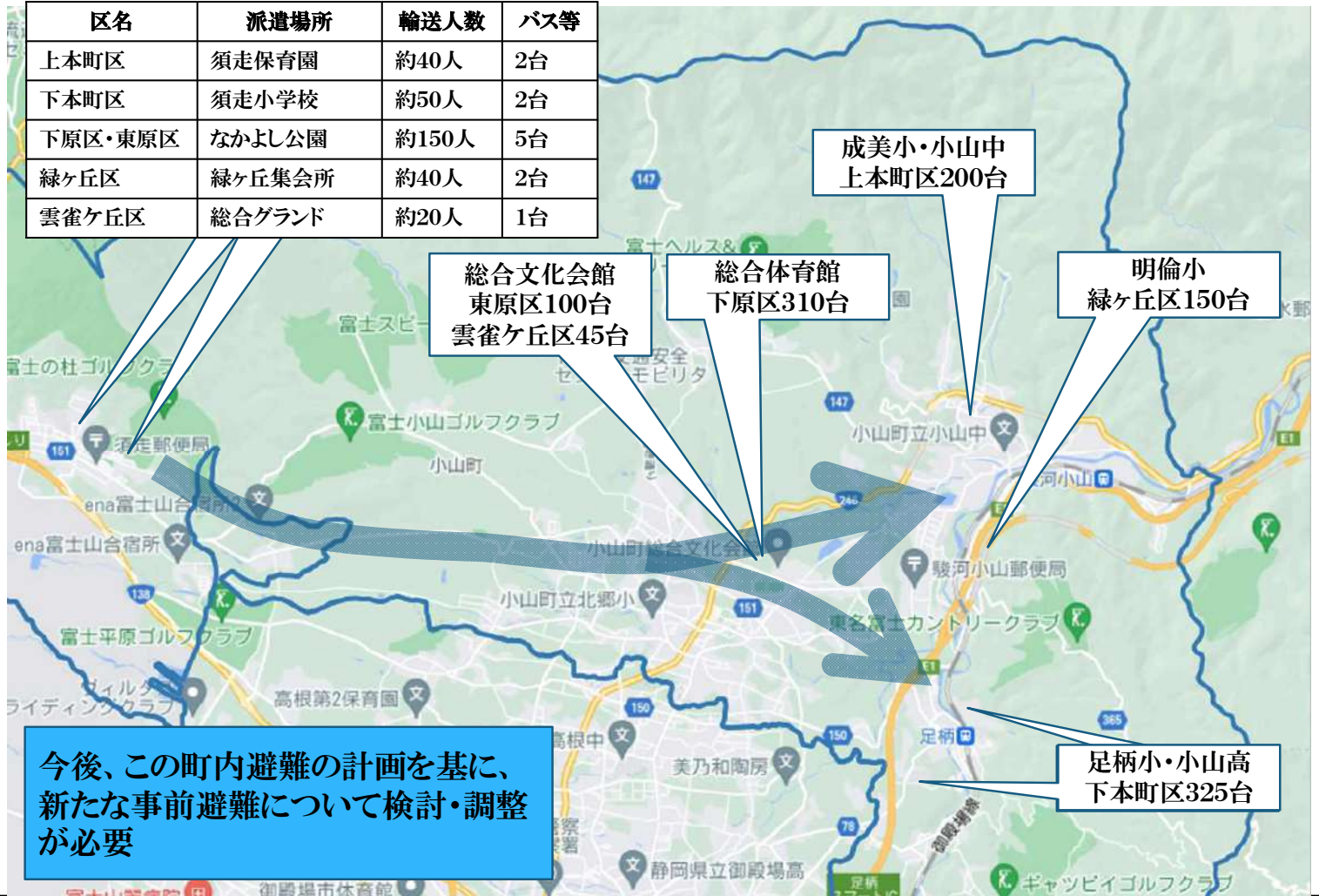
火山災害

富士山の噴火警戒レベル

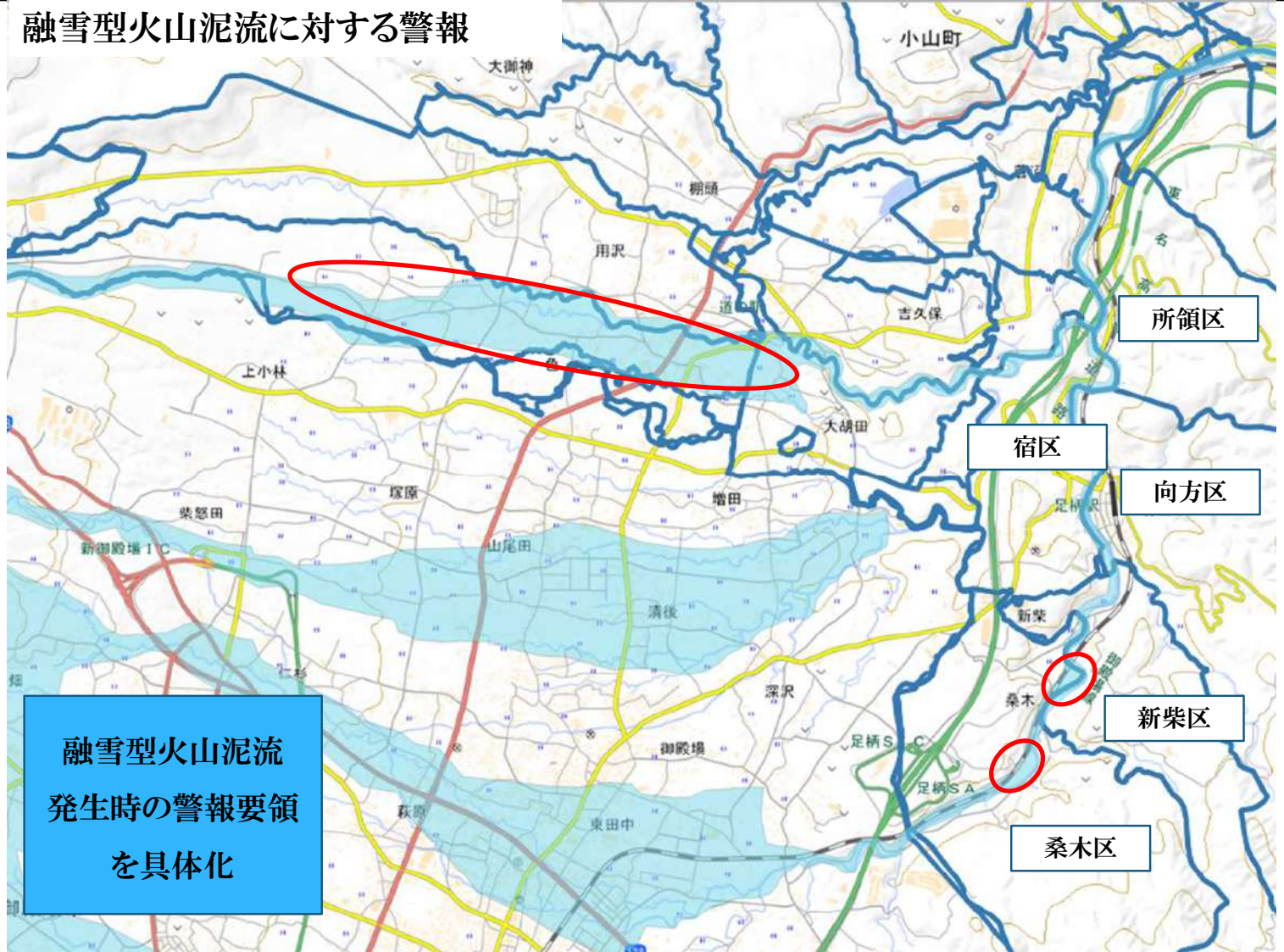
予報 警報	対象 範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山 者・入山者等への対応	想定される現象等
噴火警報	居住地域及びそれより	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●大規模噴火が発生し、噴石、火砕流、溶岩流が居住地域に到達（危険範囲は状況に応じて設定）。 宝永（1707年）噴火の事例 12月16日～1月1日：大規模噴火、大量の火山灰等が広範囲に推積 その他の噴火の事例 貞観噴火（864～865年）：北西山腹から噴火、溶岩流が約8kmまで到達 延暦噴火（800～802年）：北東山腹から噴火、溶岩流が約13kmまで到達 ●顕著な群発地震、地殻変動の加速、小規模噴火開始後の噴火活動の高まり等、大規模噴火が切迫している（噴石飛散、火砕流等、すぐに影響の及ぶ範囲が危険）。 宝永（1707年）噴火の事例 12月15日昼～16日午前（噴火開始前日～直前）：地震多発、東京など広域で揺れ
	火口側	4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難準備、災害時要援護者の避難等が必要。	●小規模噴火の発生、地震多発、顕著な地殻変動等により、居住地域に影響するような噴火の発生が予想される（火口出現が想定される範囲は危険）。 宝永（1707年）噴火の事例 12月14日まで（噴火開始数日前）：山麓で有感となる地震が増加
火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	●居住地域に影響しない程度の噴火の発生、または地震、微動の増加等、火山活動の高まり。 宝永（1707年）噴火の事例 12月3日以降（噴火開始十数日前）：山中のみで有感となる地震が多発、鳴動がほぼ毎日あった
	火口周辺	2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。火口周辺への立入規制等。	●影響が火口周辺に限定されるごく小規模な噴火の発生等。 過去事例 該当する記録なし
噴火予報	火口内等	1 (活火山に留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰等の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	特になし。	●火山活動は静穏（深部低周波地震の多発等も含む）。

町内避難の概要（現行計画）→事前避難

区名	派遣場所	輸送人数	バス等
上本町区	須走保育園	約40人	2台
下本町区	須走小学校	約50人	2台
下原区・東原区	なかよし公園	約150人	5台
緑ヶ丘区	緑ヶ丘集会所	約40人	2台
雲雀ヶ丘区	総合グランド	約20人	1台



融雪型火山泥流に対する警報



逃げ遅れの方などへの対応（案）

L-28 大規模噴火の場合 (ドリルマップ)



広域避難の概要（現行計画）

24

- 富士山火山防災対策協議会は、広域避難の軸となる路線、区間を広域避難経路として指定
- 町は、広域避難ルートを検討の上、広域避難路までの接続道路及び広域避難路からの避難先市町での接続道路をあらかじめ避難路として指定

- ★ 広域避難に関しては、関係市町間の連絡協議会等を設置し調整・検討
 - 東部地域相互応援協定連絡協議会
 - 環富士山火山防災連絡会

今後、役場機能の
先行移転を含めて
検討・調整

3 今後の検討要領(概要)

問題認識	検討要領(概要)
噴火後の避難では、適切な避難ができない可能性 →事前避難を含めた検討が必要	●勉強会・出前講座による話し合い →須走地区／北郷地区／富士学校 ●避難計画案の策定 →暫定案 →県広域避難計画策定後、町避難計画策定 ●避難訓練による検証 →須走地区・(北郷地区(検討)) →役場機能移転先への移動(県広域計画策定後)
融雪型火山泥流による須走地区(富士学校含む)・北郷地区・河川流域における被害発生	●勉強会・出前講座等(上記に同じ) ●警告／警報手段の確立と計画内への記載 ●富士山噴火(融雪型火山泥流)に関する広報 防災マップへの反映
噴火後24h程度で、小山町のライフラインが途絶する場合の処置	●町内各事業所の富士山噴火時の対応を確認(話し合い等) ●広域避難計画と町避難計画の具体化 →役場機能の早期移転 →逃げ遅れ者対応 ●自助の助長 →町の住民の方への富士山噴火に関する正確な広報 ●共助の助長 →地域住民相互の避難の呼びかけの助長 ●公助の検討と調整 →警察・消防(団)・自衛隊等との支援内容具体化

今後の予定

		令和3年度	令和4年度
対策協議会／県		広域避難計画策定	
小山町	全 般	①聞き取り・勉強会 ②広域避難計画調整 ③計画暫定版作成	①聞き取り・勉強会 ②町避難計画案策定 ③計画案検証
	防災マップ	富士山防災マップ(小山町版)策定・配布	
	避難計画等	12/14 富士山HM 説明会 (今後) 富士山HM勉強会／出前講座	(広域計画策定後) ・避難先自治体調整 ・町内自主防災会等との意見交換／地区防災計画への反映
	避難訓練等	7/14 防災訓練 (山小屋)	7月 防災訓練 (山小屋) 12月 地域防災訓練 (須走等) 仮

質 疑 応 答

